

歓楽街型の「ほこみち」を目指して

SHINOBAZU NIGHT TERRACE - ACTION REPORT

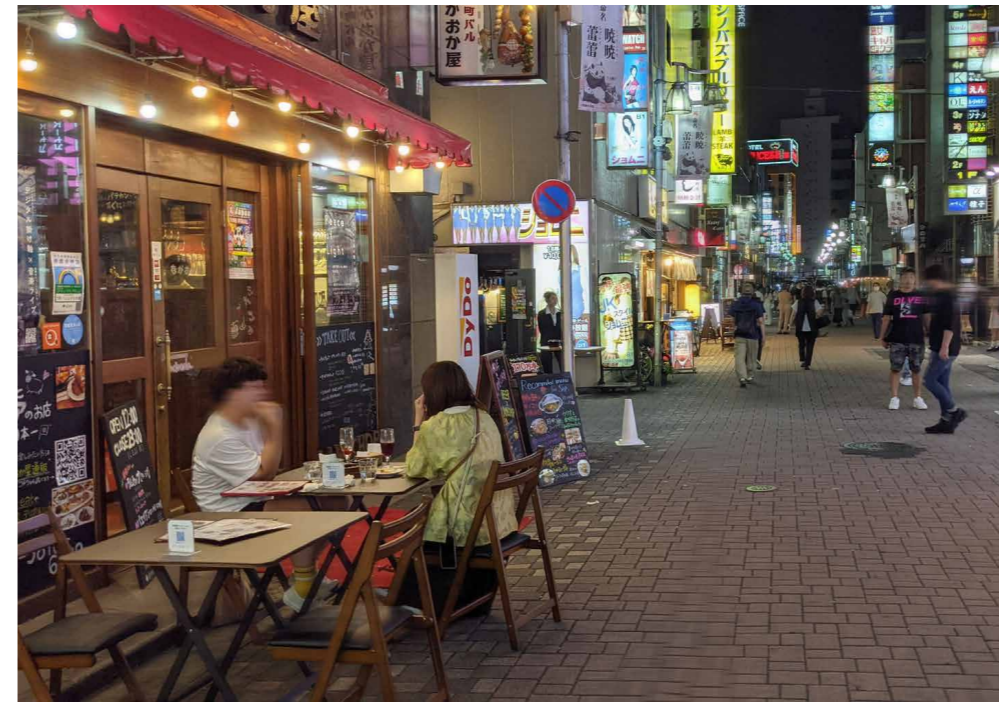


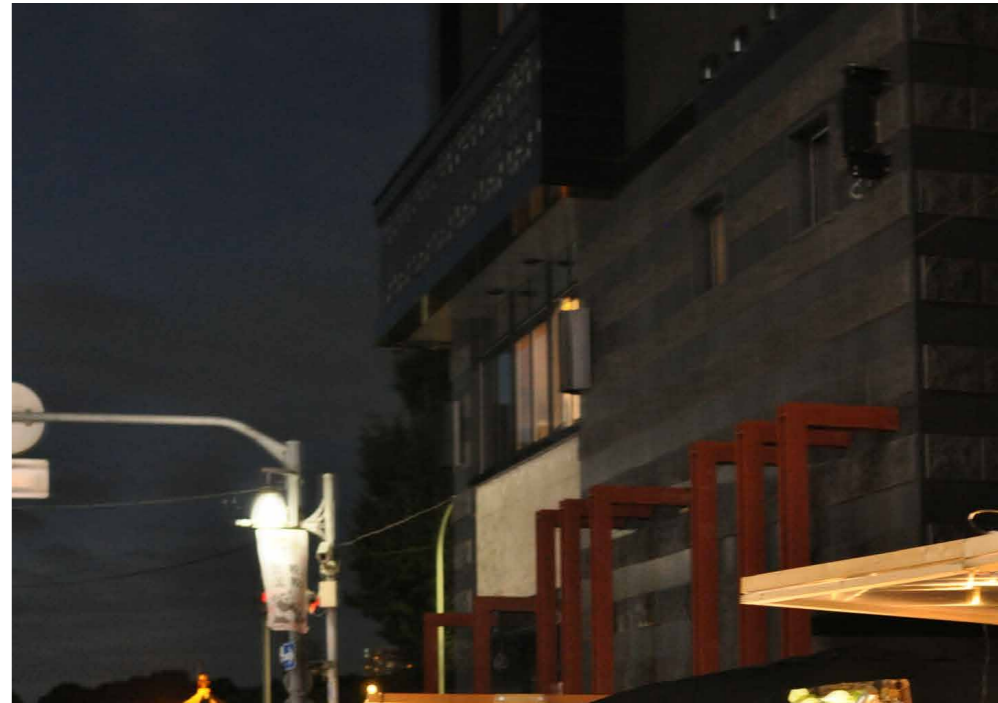
東京都台東区 仲町通り+吹貫横丁

しのばずナイトテラス 仲町通り道路利活用社会実験2022 活動報告書

実施主体 | 池之端仲町商店会・上野2丁目仲町通り商店会
調査協力 | 東京大学大学院都市デザイン研究室／筑波大学社会学類 社会調査実習 II／株式会社都市計画設計研究所







INDEX

00. まちの風景	1 - V
01. 社会実験の概要	4-11
02. 実地調査と効果検証	12-27
03. 東大×筑波大 合同リサーチ	28-35
04. 参考資料	36-41

2019年度

商店会と大学等が連携したまちづくりと地元コミュニティの再生

- ① 毎月1回の沿道ビルオーナー勉強会のスタート
- ② アーツ&スナック運動（歴史や文化の再発見、空きスナックの活用）

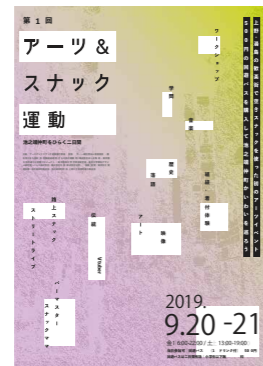


池之端仲町かいわい
空きスペース活用ミーティング

4月に界隈ビルオーナーと専門家有志による勉強会が発足。テーマは空きスナック等の活用。ここでの議論の積み重ねからアーツ&スナック運動は誕生した。

第1回アーツ
&スナック運動

空きスナックを同時多発的に活かした歓楽街回遊型アーツイベントを9月に開催。「池之端仲町をひらく二日間」と題し全7カ所の空きスナックでアーツ体験を提供。



アーカイブ
冊子 #1 発行

第1回アーツ&スナック運動までの取り組みをまとめた冊子。界隈が長い時間を掛けて育んできた、歴史・文化（=アーツ）を取り戻す社会実験の全貌を収録した。

2020年度

コロナ禍における「ガイトウスタンド」等の道路利活用

- ① テラス営業を目的とする道路占用許可特例を活用した「ガイトウスタンド」
- ② 沿道店舗のテイクアウト支援+路上に多様な人の目をつくり出す試み



うへの&ゆしま
ガイトウスタンド&テラス

コロナ禍でスナックでの活動は困難となり、歓楽街のニューノーマルを提案する「飲める街灯」を発案。飲食店を支援する取り組みは2021年度グッドデザイン賞も受賞。

しのばず遊ぼう！
池と町（GoTo 商店街事業）

「不忍池とともに生きる街」を掲げたGoTo商店街事業。池と町の相互回遊をコンセプトに「しのばず和めぐりMAP」「美食めぐりMAP」などが実現。



空きスナックの
超短期貸し

第1回アーツ&スナック運動での経験を活かして、界隈ビルオーナー達とともに空きスナックの短期貸しを仕組み化。スナックの新しい使い方を掘り起こす狙いも。

2021年度

ポストコロナに向けた多様な滞在に溢れる軒先空間の志向

- ① ガイトウスタンドを用いたアーツイベントの開催
- ② 木質を活用したストリートファニチャーの提案



EMARF ×
ガイトウスタンド

デジタル木材加工サービス EMARF とコラボして、純木製ガイトウスタンドを製作。地元住民とワークショップを重ねつつ、東大の大学院生がデザインした。

しのばずホップ
プロジェクト

屋上は界隈の貴重な空きスペース資源として、PJ当初から注目していた。そんな屋上で2021年春から始めた取組みが、ホップの栽培。9月に初めての収穫を行った。



第2回アーツ
&スナック運動

10月、ガイトウスタンドを回りながら様々な文化体験を楽しむ歓楽街回遊型アーツイベントを開催。スナックビルの屋上ツアーなども組み込み好評を博した。

2022年度

道路利活用の定着に向けた社会実験

- ① 路上ビアテラスイベント「Peace of Beer!」の開催
- ② 歩行者利便増進道路（「ほこみち」）を目指す社会実験

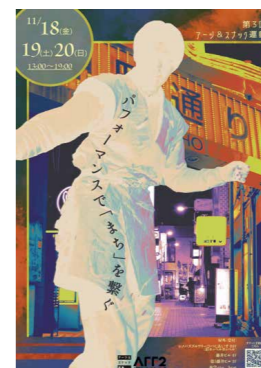


Peace of Light/
Peace of Beer!

水上音楽堂で行われた「デジタル掛け軸」イベント、Peace of Light の開催に合わせ、仲町通り・吹貫横丁で路上ビアテラスを展開。多様な人々で賑わう路上空間を創出。

仲町通り道路利活用社会実験 2022
しのばずナイトテラス

道路占用許可特例での実績を踏まえ、ポストコロナを見据えたストリートのあり方を見据え、地元が主導、台東区・上野警察がサポートして実施する道路利活用社会実験へと展開。



第3回アーツ
&スナック運動

創作ソロユニット「ほしぶろ」とのコラボレーションイベント。さまざまなパフォーマンスアートがまちの随所で繰り広げられ、まちとアーツのコラボレーションが好評だった。





01

社会実験の概要

上野～湯島をつなぐ歓楽街のメインストリート・仲町通りでは、コロナ禍での特例措置の適用を受け、道路両側 1m ずつにテラス席を配置する道路利活用を推進してきた。その中で「ガイトウスタンド」という個性的なプロジェクトが生まれ、「仲町通りの道端がいろいろな人たちの居場所になる」風景を共有した。これを通りの日常の光景に育てたい。そのための次のステップとして、「ほこみち制度」（歩行者利便増進道路制度）を念頭においた道路利活用社会実験「しのばずナイトテラス」が企画された。

実験の名称と時期

正式名称：「仲町通り道路活用社会実験 2022」
告知名称：「しのぼずナイトテラス」

第Ⅰ期：2022年7月1日～
第Ⅱ期：2022年8月1日～
第Ⅲ期：2022年8月31日～
第Ⅳ期：2022年10月1日～
第Ⅴ期：2022年11月1日～

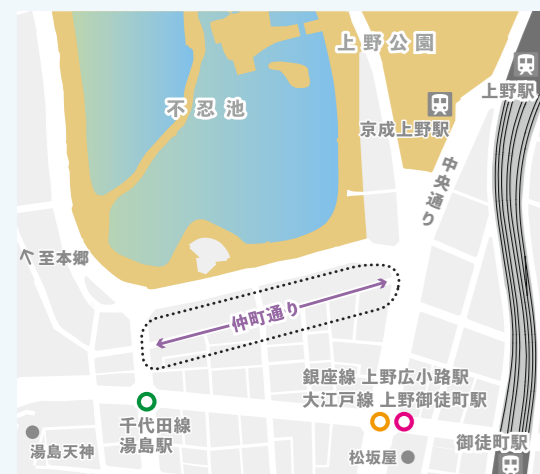
時間：17:00～6:00



社会実験の周知サイン

対象エリア

対象エリア：仲町通り周辺（上野2丁目）



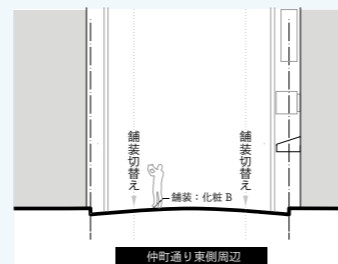
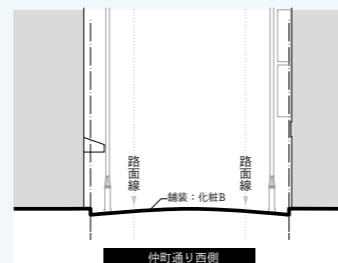
仲町通り位置図

- 本郷～湯島～上野を東西につなぐ江戸時代から続く商店街。
- 一時は東京で3本の指に入ると呼ばれるほど栄え、今も沿道に老舗が点在する。
- 歓楽街化が進み、近年では違法な客引き行為や違法駐輪・駐車など、**安全安心まちづくり**が課題となっている。

実施場所

対象道路

仲町通り（特別区道下102号・幅員8.00m）
吹貫横丁（特別区道下103号・幅員8.00m）
※17時～翌6時までが車両通行止めとなる



社会実験の背景

仲町通りのまちづくりにおける道路の新しい役割

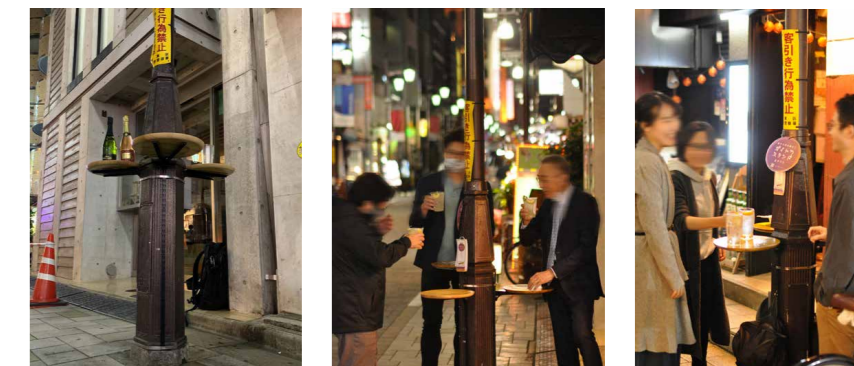
- ①目が配られやすいストリート**
客引きや違法駐輪が目立つ道端から、滞留にあふれる安全安心な軒先空間へ。
- ②食文化を育む仲町通り**
コロナ禍における『ガイトウスタンド』の取り組みをきっかけとする、テイクアウト支援等、仲町・上野らしい食文化を育てる公共空間の使いこなし。
※テラス営業を目的とした占用許可特例が2023.3で終了
- ③アーツとナイトライフが共存するまちづくり**
『アーツアンドスナック運動』の定期開催など、沿道のまちの歴史性や文化性ににじみ出し、PRする環境としての道路空間。
- ④歓楽街でのコミュニティ形成**
道路利活用を介した商店会・住民間の繋がり回復。

上野地区全体における道路利活用に向けて

- ①上野の道路文化**
上野地区には、広小路や横丁などかねてより沿道店舗からのにじみ出しや路上でのアクティビティが活発な土壌がある。
- ②ウォークブルなまちづくり**
近年「ウォークブル」や「ほこみち」が推進され、**上野地区でも適正なルールのもと道路利活用の管理・連携を回り、まちづくりに繋げることが期待される。**
- ③ほこみち制度との相性**
上野地区において利活用の対象となりうる道路は、比較的幅員が狭い箇所が多く、「ほこみち制度」のルールがそのまま適用可能かどうかは慎重に検討する必要がある。

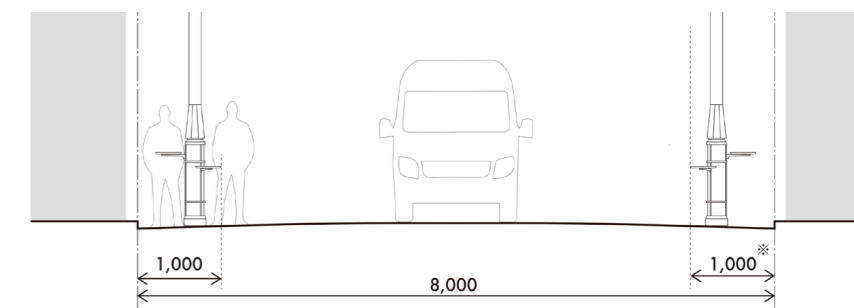
コロナ禍における取り組み

『ガイトウスタンド&テラス』



- 1 車両通行止の17時にテーブルを設置
- 2 街灯で界限MAPを発見
- 3 MAPを見て気になるお店へ
- 4 好みの街角で会話を花を咲かせる
- 5 定期巡回でゴミ回収&消毒
- 6 界限飲食店が撤収&保管

ガイトウスタンド（2020-）
仲町通りで生まれた、街灯を立飲みテーブルに変えるアイデア。
着脱式のテーブルは通りに点在的な滞留空間を生み出す。
来街者は界限の飲食店からテイクアウトの飲食を各々選んで持ち寄り、街角で話を花を咲かせた。



※道路占用緩和特例の台東区基準による

社会実験の概要

社会実験の目的

- コロナ占用許可特例を活用した取り組みを、日常的かつ持続的にするべく「**ほこみち制度**」の活用を念頭に置いた道路占用及び効果検証を行い、今後の道路空間利活用のあり方を探る。
- 効果検証は地元関係者や利用者への**アンケート**、利用実態の**観察調査**により、**①交通安全面 ②治安面 ③滞留の多様性 ④継続可能性**等についての知見を得る。
- 実験期間を通じ、今後テラス設置に参加する店舗を募り、また**占用希望物件およびその範囲を明確化**する。

社会実験の内容

概要

17時以降の車両規制時間中、飲食店や物販店の前の道路空間に、滞留を促す施設を設置する。

占用

事前に台東区・上野警察・地元商店会で調整の上、占用範囲を定めた上で地元商店会が道路占用（イベント占用）を行い、実験する。

什器管理

什器は沿道店舗が管理し、その運用状況を地元商店会が管理する。

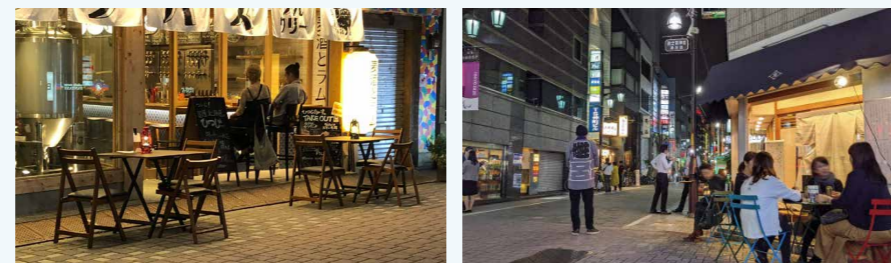
違法車両

車両規制時間中に許可証なく進入する車両および違法駐車・駐輪への対策は、上野警察と商店会が連携して可能な限り排除し、安全性を確保する。

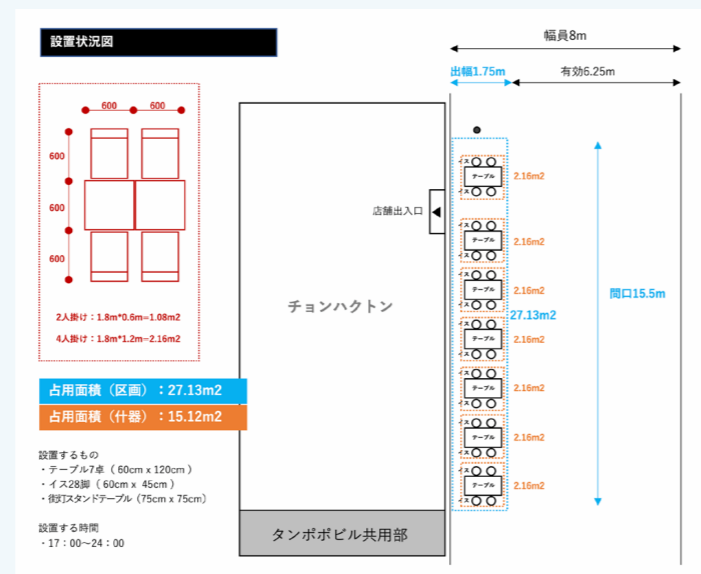
効果検証

東京大学・筑波大学等の協力主体が調査・実施する。

設置物

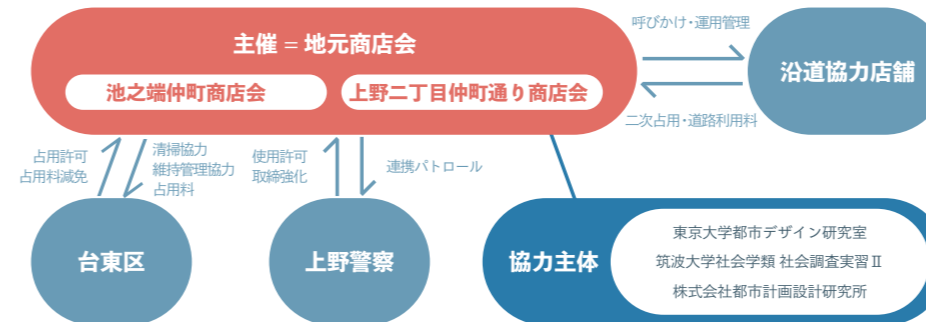


▲滞留を促す施設のイメージ



▲道路占用許可申請 添付書類の例

実験の実施体制



運営の維持管理

維持管理について

- 滞留を促す施設については、各協力店舗に適切な清掃、管理を実施するよう、商店会が十分に通知、指導する。
- 強風時等は路上への設置を中止する。また、突風に備え、什器の固定（重りの設置など）に十分配慮する。

道路維持管理への協力

道路利活用に際し、道路維持管理への協力として、商店会は下記取組を行う。

① 清掃活動

- 滞留施設の設置前後に、店舗周辺を含めた道路の清掃活動を実施する。
- 商店会が中心となり、占用区域に加えその周辺の清掃活動を行う。実施は毎月第3月曜日を原則とし、毎回7名程度の参加を予定する。

② 安全確保

- 商店街灯を適切に運用し、道路上の照度を十分に確保する。
- 路上利用区域及びその周辺の交通安全、防犯及び道路占用等許可違反の是正その他必要な措置を目的に、商店会役員によるパトロールを実施する。

想定収支

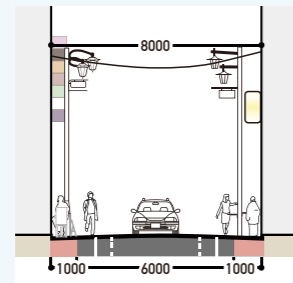
	収入	支出
道路占用料第Ⅰ期	-	¥44,510 ※ (71.79m ² × 74,400円 × 1ヶ月 ÷ 12ヶ月 × 90%減免)
道路占用料第Ⅱ期	-	¥46,301 ※ (74.68m ² × 74,400円 × 1ヶ月 ÷ 12ヶ月 × 90%減免)
道路占用料第Ⅲ期	-	¥53,221 ※ (85.84m ² × 74,400円 × 1ヶ月 ÷ 12ヶ月 × 90%減免)
道路占用料第Ⅳ期	-	¥57,592 ※ (92.89m ² × 74,400円 × 1ヶ月 ÷ 12ヶ月 × 90%減免)
道路占用料第Ⅴ期	-	¥449,228 ※ (90.57m ² × 74,400円 × 8ヶ月 ÷ 12ヶ月 × 90%減免)
道路使用料第Ⅰ期	¥85,810 (二次占用分 57.21m ² × 1,500円 × 1ヶ月)	-
道路使用料第Ⅱ期	¥96,630 (二次占用分 64.42m ² × 1,500円 × 1ヶ月)	-
道路使用料第Ⅲ期	¥103,965 (二次占用分 69.31m ² × 1,500円 × 1ヶ月)	-
道路使用料第Ⅳ期	¥114,540 (二次占用分 76.36m ² × 1,500円 × 1ヶ月)	-
道路使用料第Ⅴ期	¥895,320 (二次占用分 74.61m ² × 1,500円 × 8ヶ月)	-
清掃料	-	¥480,000 (10,000円 × 4回 × 12ヶ月)
告知PR費用	-	¥50,000
合計	¥1,256,265	¥1,180,852

※社会実験中は免除。将来的に商店会が、沿道協力店舗から、予め指定した占有面積に応じて、1,500~2,000円/m²・月を目安に道路使用料を徴収することを想定。

占用幅の考え方

2020年 秋～
テラス営業を目的とした道路占用許可特例時

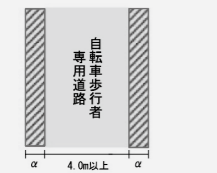
- 仮設足場の考え方に基づき、**両側 1.0m ずつ**を上限とした占用範囲を設定（台東区）
- 2020年9月～2022年6月にかけて両側 1.0m ずつでテラス設置が行われた
- ・・・**実質的な社会実験となった**



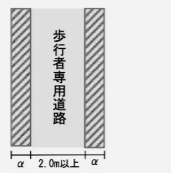
2022年 夏～
社会実験しのばずナイトテラスの幅員設定

- 将来的手段としてほこみち制度の活用を想定して占用幅員を設定する
- 一帯の**17:00-6:00**を自転車歩行者専用道路と見なすことは妥当（国交省担当者より・下図）
- 自転車歩行者専用道路の場合、**4.0m 以上の通行幅員確保**が必要
- ・・・**仲町通りであれば最大両側 2.0m ずつの区域指定の可能性**がある
- ・・・**違法駐車、違法車両、客引きの問題などあり、段階的に広げながら模索すること**

① 自転車歩行者専用道路の場合



② 歩行者専用道路の場合



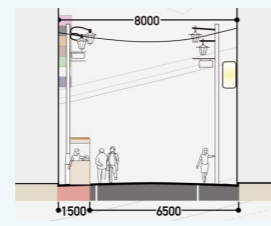
α: 利便増進誘導区域
(※国交省ほこみち説明資料)

車両通行止めの時間帯（17-6時）
はこれに相当するものとみなす

5段階の実証実験

第Ⅰ期 片側 1.5m

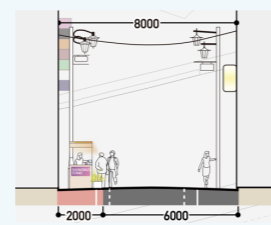
期間：2022年7月1日～7月31日
協力店舗数：6店舗程度
占用幅：片側 1.5m



テラス営業目的のコロナ道路占用での 1.0m 幅から拡大した場合の安全性等について、片側のみで検証

第Ⅱ期 片側 2.0m

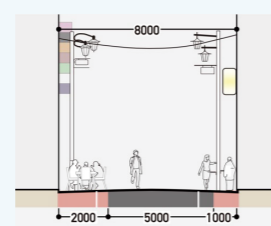
期間：2022年8月1日～8月30日
協力店舗数：7店舗程度
占用幅：片側 2.0m



可能性として考えられる 2.0m 幅の出幅の効果と安全性等について、片側のみで検証

第Ⅲ期 片側 2.0m + ガイトウスタンド

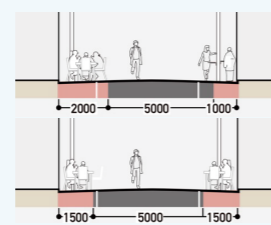
期間：2022年8月31日～9月30日
協力店舗数：8店舗程度
占用幅：片側 2.0m + 反対側ガイトウスタンドのみ



両側占用の可能性検証として第2期内容に加え道路反対側にガイトウスタンドを設置

第Ⅳ期 部分的に両側 1.5m

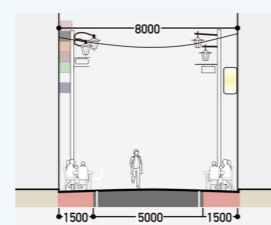
期間：2022年10月1日～10月31日
協力店舗数：8店舗程度
占用幅：第3期同等 + 部分的に両側 1.5m



両側占用の具体的なニーズがあった箇所に限定し、一部で両側 1.5m 占用を実施

第Ⅴ期 両側 1.5m

期間：2022年11月1日～
協力店舗数：8店舗程度
占用幅：両側 1.5m



通り全体で均等な出幅と、現時点での利用可能性から占用幅員を設定しなおし、両側 1.5m で統一して実験

占用範囲図（第Ⅴ期）





02 実地調査と効果検証

第Ⅰ期（7月）～第Ⅴ期（11月）の各期、金・土・日曜日において、テラス席の利用実態調査、利用者や参加店舗の意見を聞くアンケート調査、交通量や道路環境の調査、地元関係者へのヒアリング調査等を実施した。調査は東京大学大学院都市デザイン研究室や筑波大学社会学類の教員・学生有志らによって実施され、照明の設置や交通安全のための座席配置の改善など、設えの工夫を随時追加で施しながら、その様子を具に観測した。

①テラス席の出幅・配置に応じた交通安全性の確認

②仲町通りにおける滞留の多様性の創出

③客引き・違法車両等で把握する仲町通りの治安面の変化

④仲町通りにおける路上利活用の取り組みの継続可能性

⑤上野地区の他の通りへのほこみちの適用可能性

地区内アンケート

- ・ 社会実験の参加店舗の満足度や負担感を確認
- ▶ 継続的な道路利活用に向けたフィードバックを得る

利用者の評価アンケート

- ・ 利用者の利用動機や満足度を確認
- ▶ 安全な路上環境やより快適に滞在することができるテラス席創出に向けたフィードバックを得る

上野地域関係者へのヒアリング

- ・ 上野地域関係者の仲町通り社会実験への印象や期間中の周辺への波及効果を確認
- ▶ 継続的な道路利活用に向けた今後の改善点を得る

利用実態悉皆調査

- ・ 参加店舗全店を対象に、利用者及び属性、滞在時間等を調査
- ▶ 基本的な利用状況を明らかにする

利用実態観測調査

- ・ 参加店舗全店を対象に、占用空間周辺における利用者のアクティビティを調査
- ▶ 詳細な利用状況を把握する

道路状況調査

- ・ 仲町通りの道路状況を社会実験前と社会実験中に記録・比較する
- ▶ 道路占用による間接的な道路環境の改善効果を検証する

回答用紙の配布によるアンケート調査

- ・ 参加店舗にアンケートを配布し、後日回収
- 【時期】 配布回収ともに、第Ⅴ期の下旬

Google Forms への回答によるアンケート調査

- ・ テラス席のテーブル上に QR コードを貼ったポップを設置
- ・ 調査中に利用者へ声かけ
- 【時期】 第Ⅰ期から第Ⅴ期

上野まちづくり協議会関係者による社会実験視察+ヒアリング

- ・ ツアー終了後にヒアリング調査を実施
- 【時期】 第Ⅲ期（2022年8月31日）

観測員による目視調査

- ・ 17時から22時の1時間ごとに調査員がテラス席を回り、利用者の属性等を記録
- 【時期】 第Ⅰ期から第Ⅴ期の祝前日及び土曜日1日ずつ

観測員による目視調査

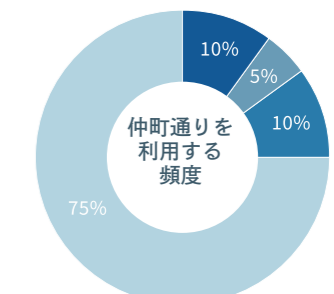
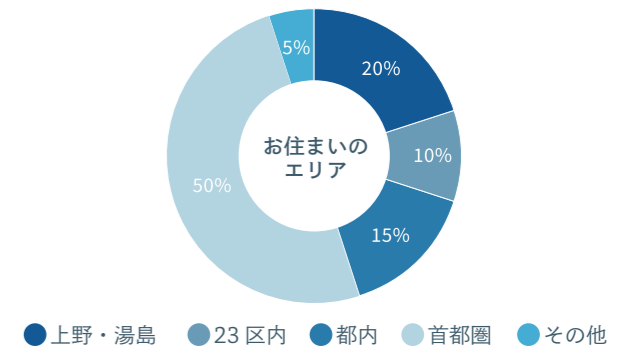
- ・ 17時から22時まで調査員がテラス席を観察し、特徴的なアクティビティ等を記録
- 【時期】 第Ⅰ期から第Ⅴ期の祝前日及び土曜日1日ずつ

観測員による目視調査

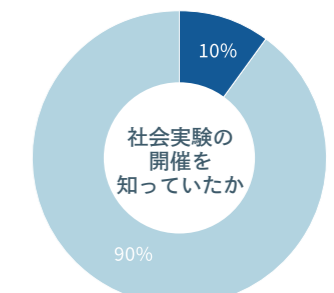
- ・ 12時、16時、19～20時に交通量（歩行者・自転車・自動車）、客引き数・違法駐車台数・違法駐輪数を数える
- 【時期】 第Ⅰ期から第Ⅴ期の祝前日・土曜日・日曜日1日ずつ

利用者アンケート調査

回答者属性 (n=20)



● ほぼ毎日 ● 週に数回 ● 月に数回 ● 来たことがある ● 初めて来た



● 知っていた ● 知らなかった

各期の調査イメージ

- : 道路状況調査・利用実態調査の実施日
- : 道路状況調査のみの実施日

調査スケジュール

第Ⅰ期

7月

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

第Ⅱ期

8月

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

第Ⅲ期

9月

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

第Ⅳ期

10月

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

第Ⅴ期

11月

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	12/1	2	3
4						

占用範囲



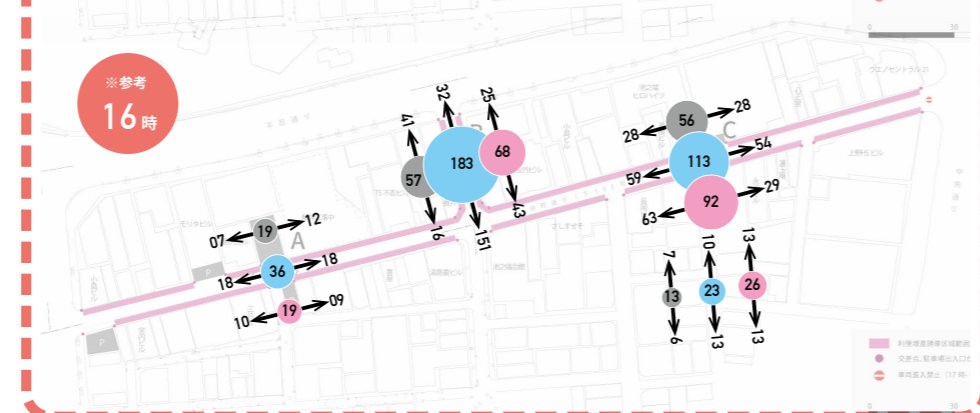
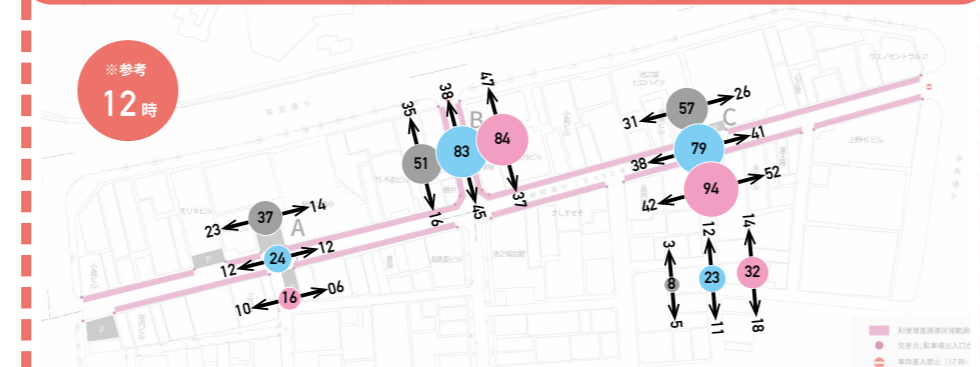
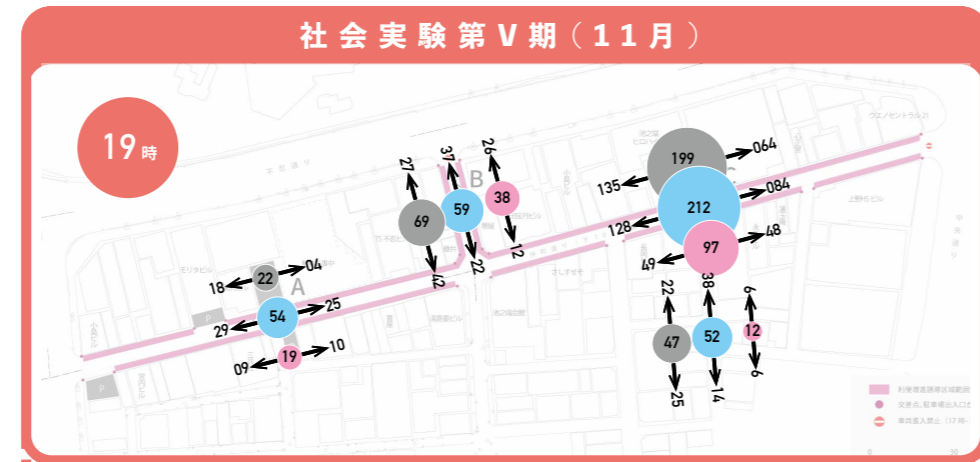
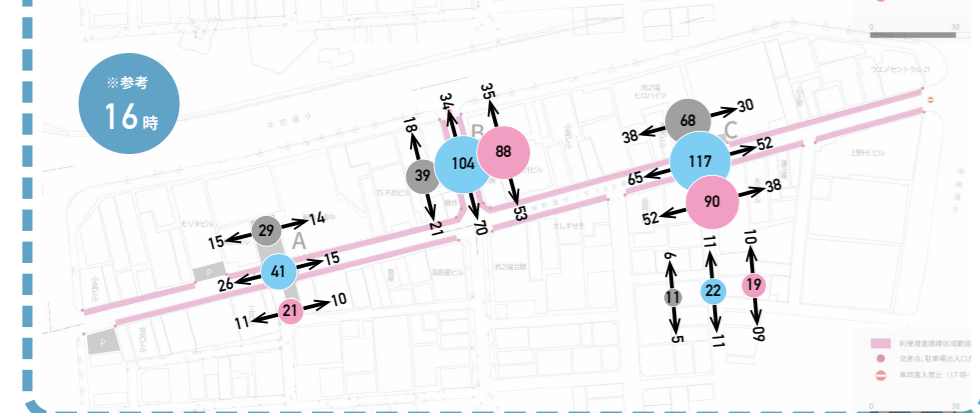
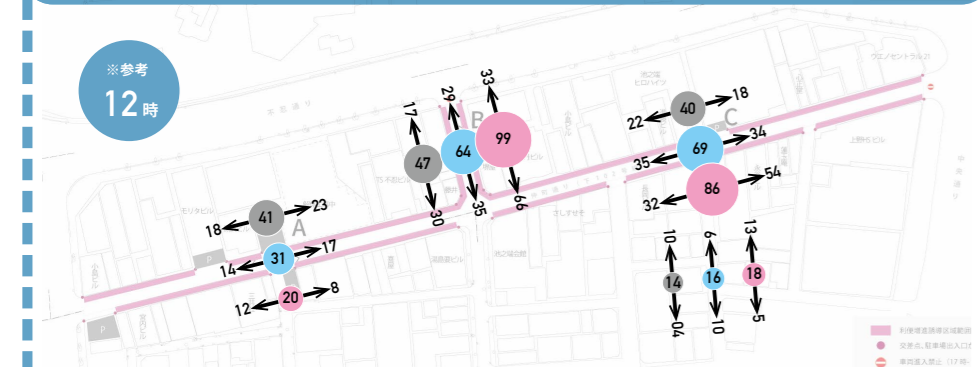
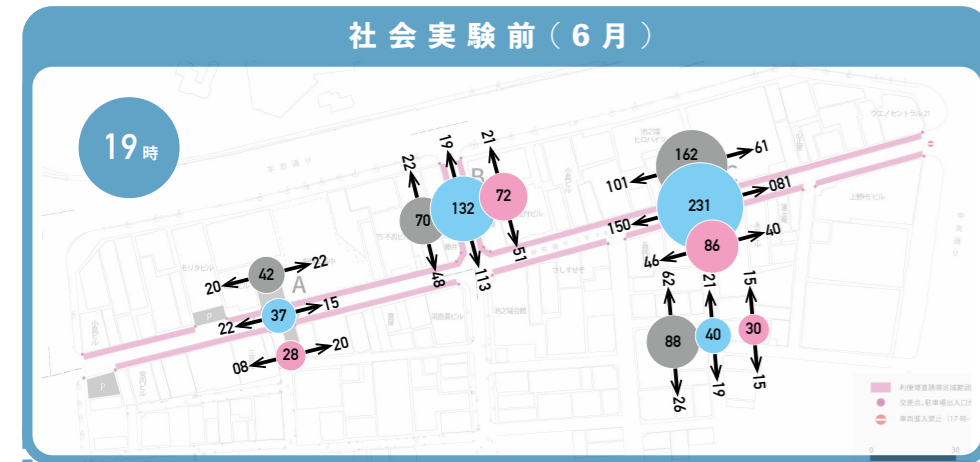
設えの工夫



交通安全性（歩行者編） | 実験を通じた検証①

歩行者量とのバランス(歩行者通行量(10分間))

金 土 日



歩行者通行量[人/10分] BACK DATA

社会実験前

6月17日(金)	12:00	16:00	19:00
B(吹貫横丁側)	47	39	70
C(上野二丁目側)	40	68	162

6月18日(土)	12:00	16:00	19:00
B(吹貫横丁側)	64	104	74
C(上野二丁目側)	69	117	205

6月19日(日)	12:00	16:00	19:00
B(吹貫横丁側)	99	88	72
C(上野二丁目側)	86	90	86

第I期

7月22日(金)	12:00	16:00	19:00
B(吹貫横丁側)	59	52	52
C(上野二丁目側)	44	44	172

7月23日(土)	12:00	16:00	19:00
B(吹貫横丁側)	52	71	64
C(上野二丁目側)	77	63	130

7月24日(日)	12:00	16:00	19:00
B(吹貫横丁側)	44	60	42
C(上野二丁目側)	59	63	107

第II期

8月19日(金)	12:00	16:00	19:00
B(吹貫横丁側)	22	35	64
C(上野二丁目側)	43	61	158

8月20日(土)	12:00	16:00	19:00
B(吹貫横丁側)	70	61	68
C(上野二丁目側)	50	63	128

8月21日(日)	12:00	16:00	19:00
B(吹貫横丁側)	51	75	18
C(上野二丁目側)	65	61	80

第III期

9月23日(金)	12:00	16:00	19:00
B(吹貫横丁側)	-	-	-
C(上野二丁目側)	-	-	-

9月17日(土)	12:00	16:00	19:00
B(吹貫横丁側)	96	77	67
C(上野二丁目側)	69	96	179

9月18日(日)	12:00	16:00	19:00
B(吹貫横丁側)	-	-	-
C(上野二丁目側)	-	-	-

第IV期

10月14日(金)	12:00	16:00	19:00
B(吹貫横丁側)	40	45	62
C(上野二丁目側)	46	46	148

10月15日(土)	12:00	16:00	19:00
B(吹貫横丁側)	-	-	-
C(上野二丁目側)	-	-	-

10月16日(日)	12:00	16:00	19:00
B(吹貫横丁側)	79	66	44
C(上野二丁目側)	83	50	126

第V期

11月11日(金)	12:00	16:00	19:00
B(吹貫横丁側)	51	57	69
C(上野二丁目側)	57	56	199

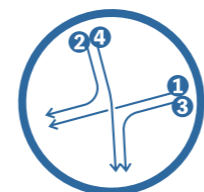
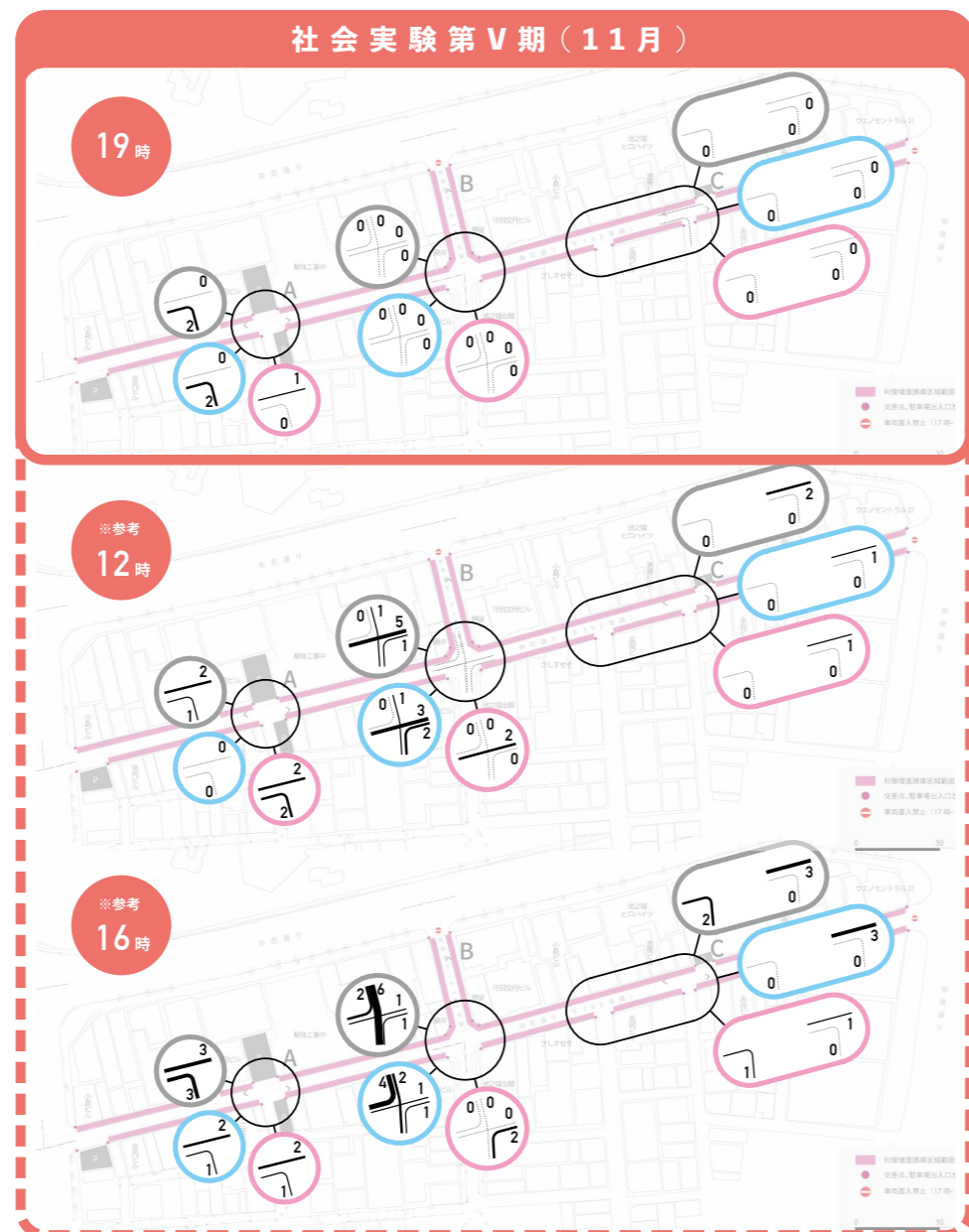
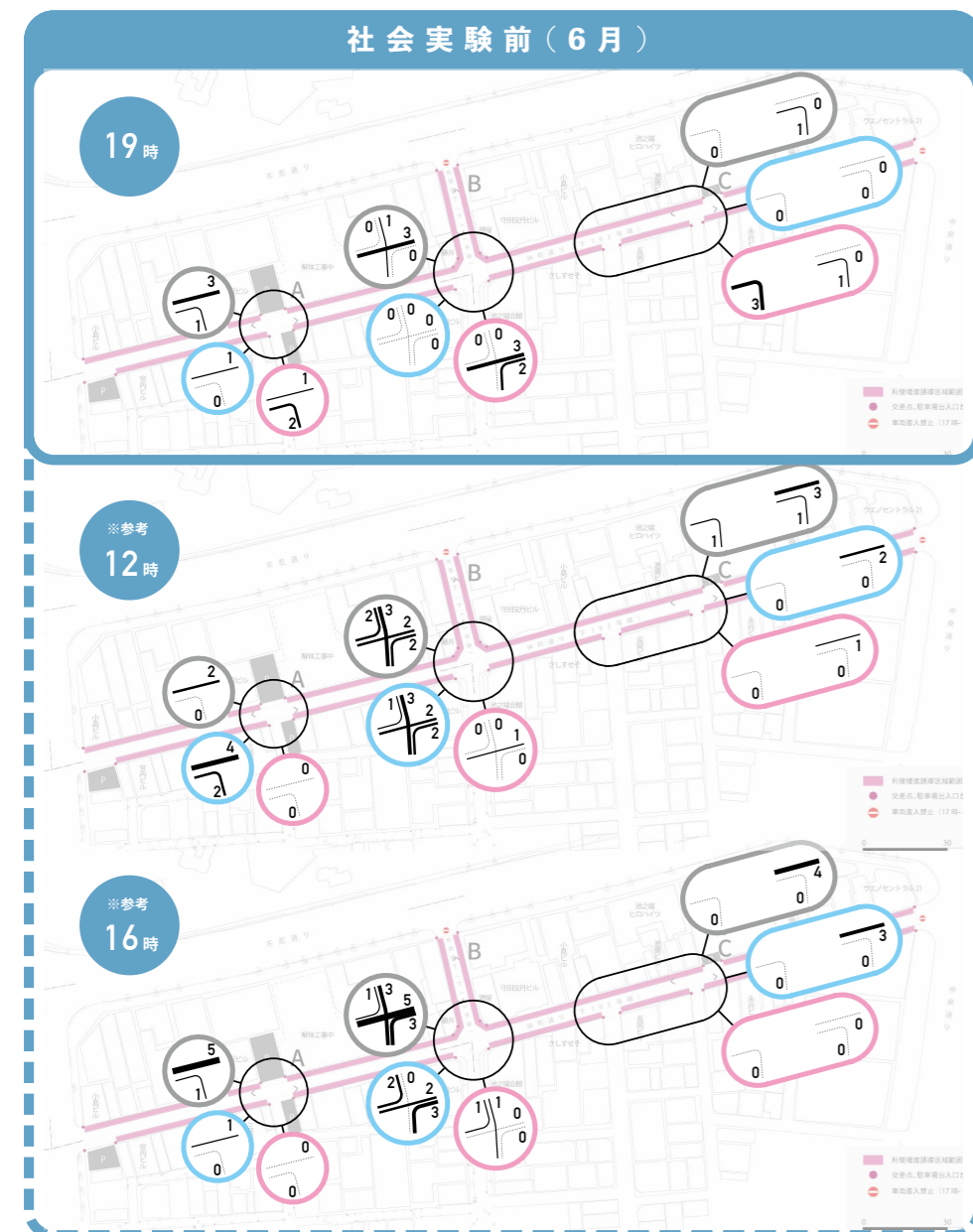
11月12日(土)	12:00	16:00	19:00
B(吹貫横丁側)	83	183	59
C(上野二丁目側)	79	113	212

12月4日(日)	12:00	16:00	19:00
B(吹貫横丁側)	84	68	38
C(上野二丁目側)	94	92	97

交通安全性（自動車編） | 実験を通じた検証①

違法車両や許可車両の通行量(自動車通行量(10分間))

金 土 日



社会実験前

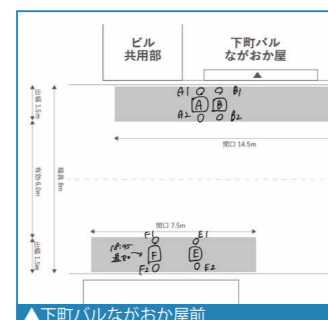
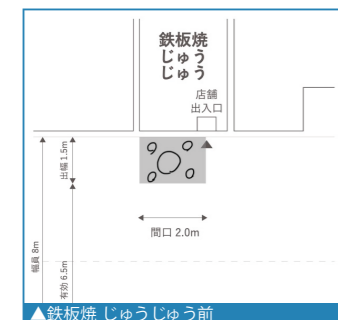
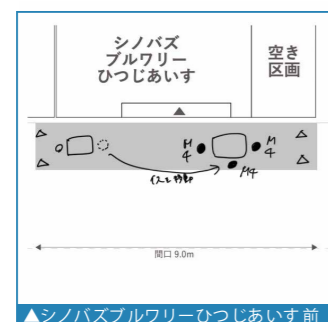
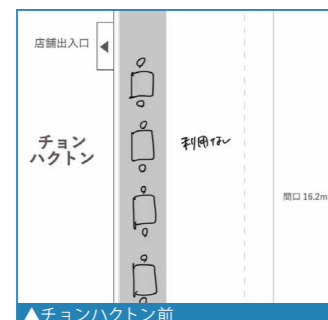
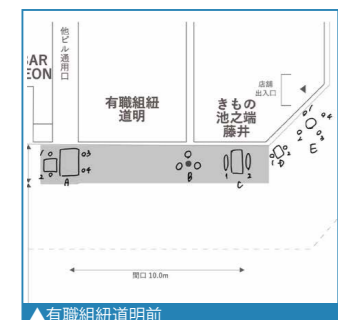
中央交差点部 自動車通行量 [台/10分] BACK DATA

期	日	12:00	16:00	19:00
社会実験前	6月17日 (金)	①: 2, ②: 2, ③: 2, ④: 3	①: 5, ②: 1, ③: 3, ④: 3	①: 3, ②: 0, ③: 0, ④: 1
	6月18日 (土)	①: 2, ②: 1, ③: 2, ④: 3	①: 2, ②: 2, ③: 3, ④: 0	①: 0, ②: 1, ③: 0, ④: 0
	6月19日 (日)	①: 1, ②: 0, ③: 0, ④: 0	①: 0, ②: 1, ③: 0, ④: 1	①: 3, ②: 0, ③: 2, ④: 0
	7月22日 (金)	①: 2, ②: 3, ③: 0, ④: 1	①: 3, ②: 0, ③: 0, ④: 1	①: 0, ②: 0, ③: 0, ④: 0
第I期	7月23日 (土)	①: 4, ②: 0, ③: 1, ④: 2	①: 1, ②: 1, ③: 3, ④: 3	①: 0, ②: 0, ③: 0, ④: 0
	7月24日 (日)	①: 2, ②: 0, ③: 1, ④: 1	①: 1, ②: 0, ③: 0, ④: 0	①: 0, ②: 1, ③: 0, ④: 0
	8月19日 (金)	①: 6, ②: 0(他バイク), ③: 3, ④: 0	①: 1, ②: 1, ③: 1, ④: 2	①: 0, ②: 0, ③: 0, ④: 0
	8月20日 (土)	①: 2, ②: 3, ③: 0, ④: 2	①: 5, ②: 0, ③: 1, ④: 1	①: 0, ②: 0, ③: 0, ④: 0
第II期	8月21日 (日)	①: 3, ②: 0, ③: 0, ④: 1	①: 0, ②: 0, ③: 0, ④: 1	①: 0, ②: 0, ③: 1, ④: 0
	9月23日 (金)	①: -, ②: -, ③: -, ④: -	①: -, ②: -, ③: -, ④: -	①: -, ②: -, ③: -, ④: -
	9月17日 (土)	①: 6, ②: 2, ③: 0, ④: 2	①: 2, ②: 0, ③: 1, ④: 2	①: 0, ②: 0, ③: 0, ④: 0
	9月18日 (日)	①: -, ②: -, ③: -, ④: -	①: -, ②: -, ③: -, ④: -	①: -, ②: -, ③: -, ④: -
第III期	10月14日 (金)	①: 4, ②: 0, ③: 4, ④: 1	①: 3, ②: 4, ③: 4, ④: 5	①: 0, ②: 0, ③: 0, ④: 0
	10月15日 (土)	①: -, ②: -, ③: -, ④: -	①: -, ②: -, ③: -, ④: -	①: -, ②: -, ③: -, ④: -
	10月16日 (日)	①: 0, ②: 1, ③: 0, ④: 2	①: 0, ②: 1, ③: 2, ④: 0	①: 0, ②: 0, ③: 0, ④: 0
	11月11日 (金)	①: 5, ②: 0, ③: 1, ④: 1	①: 1, ②: 2, ③: 1, ④: 6	①: 0, ②: 0, ③: 0, ④: 0
第IV期	11月12日 (土)	①: 3, ②: 0, ③: 2, ④: 1	①: 1, ②: 4, ③: 1, ④: 2	①: 0, ②: 0, ③: 0, ④: 0
	12月4日 (日)	①: 2, ②: 0, ③: 0, ④: 0	①: 0, ②: 0, ③: 2, ④: 0	①: 0, ②: 0, ③: 0, ④: 0
	11月11日 (金)	①: 5, ②: 0, ③: 1, ④: 1	①: 1, ②: 2, ③: 1, ④: 6	①: 0, ②: 0, ③: 0, ④: 0
	11月12日 (土)	①: 3, ②: 0, ③: 2, ④: 1	①: 1, ②: 4, ③: 1, ④: 2	①: 0, ②: 0, ③: 0, ④: 0
第V期	12月4日 (日)	①: 2, ②: 0, ③: 0, ④: 0	①: 0, ②: 0, ③: 2, ④: 0	①: 0, ②: 0, ③: 0, ④: 0

交通安全性（出幅の適切さ） | 実験を通じた検証①

✓ 占有範囲の利用は全て出幅が守られていた

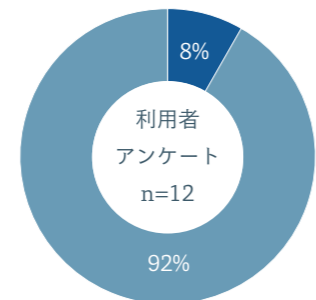
各占有範囲で什器の設置位置や椅子を動かした様子等を記録したが、全ての日程において、**指定された出幅を超えたテラス席の利用は見られなかった。**



✓ 利用者は1.5～2.0mの出幅で「ちょうどよい」

1.5m幅のテラスに対する印象

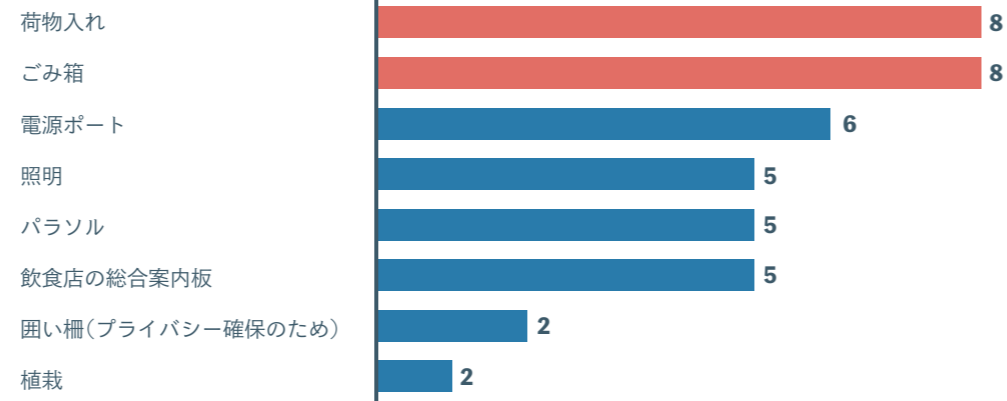
2.0m幅のテラスに対する印象



- もっと広い方がよい
- このままでよい
- もっと狭い方がよい

「**十分にくつろげる広さ**」（片側 1.5m）
 「**広すぎず狭すぎず、道にはみ出ていない感覚**」（片側 1.5m）
 （自由記述）「**車の往来もあるようなので幅を広げると怖さを感じると思う**」（両側 1.5m）
 「**交通の妨げにならない程度**と感じる」（両側 2.0m）
 「**他の席との距離感もちょうどよい**」（両側 2.0m）」

✓ 路上テラスにあると良いものについて

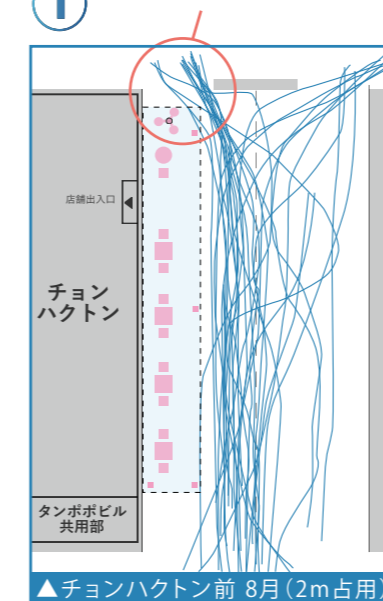


（自由記述） 喫煙所／ヒーター／Wi-Fi／夏は虫除け／冬は風よけ／サーキュレーターや暖房

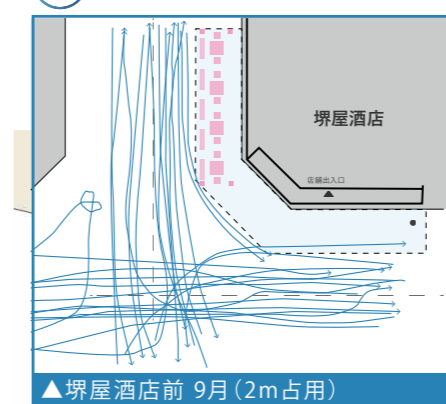
✓ 自転車との交錯は見られなかった

各占有範囲付近で各30台の自転車走行位置をトラッキング調査したが、全ての日程において、テラス席の利用者と自転車が交錯する場面は見られなかった。

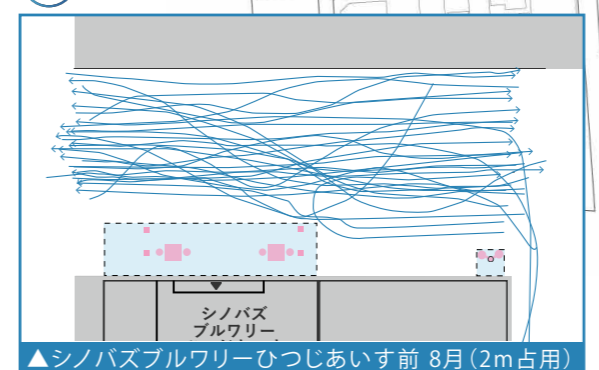
① 近接が見られた箇所 →その後占有範囲縮小



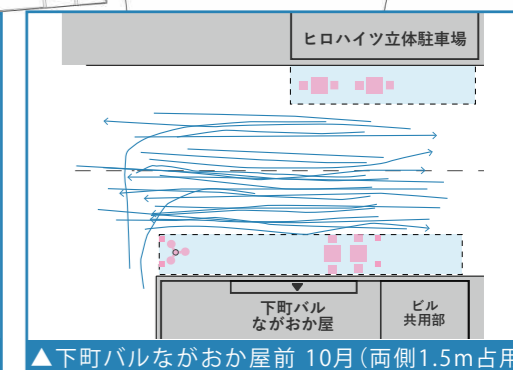
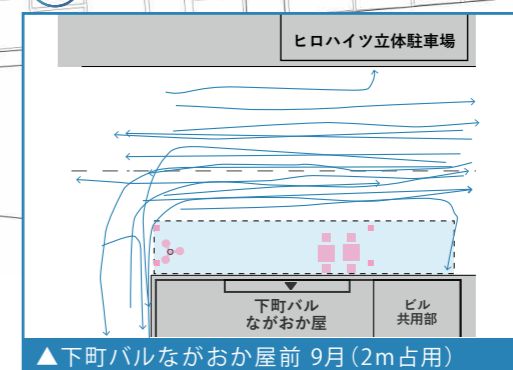
②



③



④



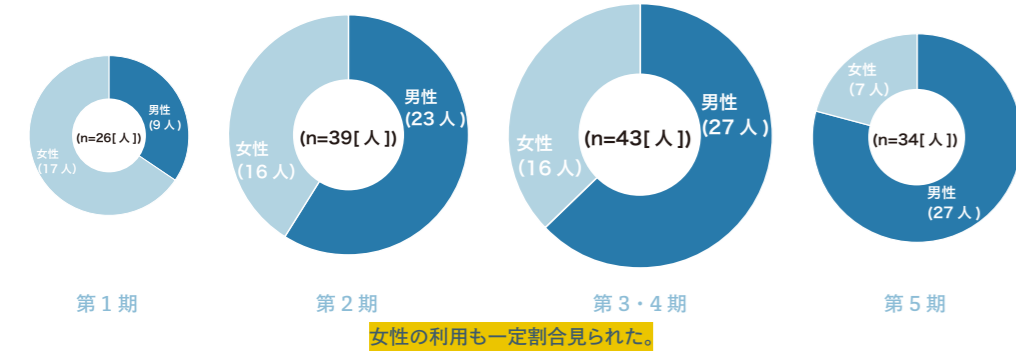
滞留の多様性（利用者動向） | 実験を通じた検証②

どのようなニーズがあったか？人の目がどの程度生まれたか？

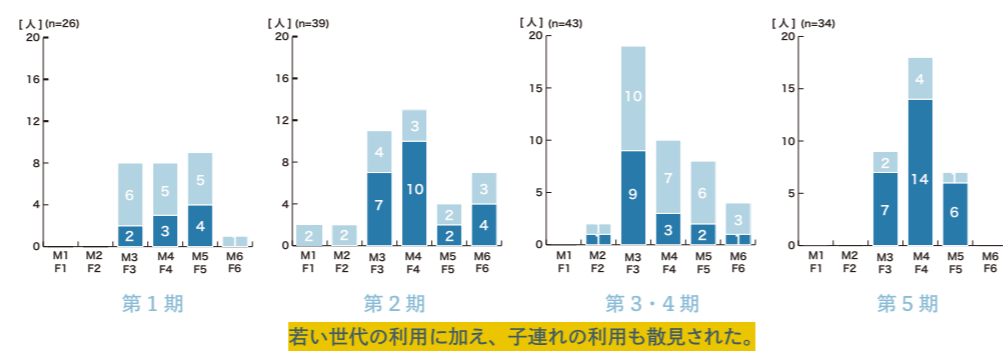
- ・利用の度合いや、どのような層に使われる傾向があるかを検証／検証する
- ・客引き以外の滞留が通りにどの程度多様に行われたかを把握することで、安全安心なまちづくりへの間接的な効果を表す

調査概要	調査日 第Ⅰ期：2022年7月22日(金)、23日(土) 第Ⅱ期：2022年8月19日(金)、27日(土) 第Ⅲ・Ⅳ期：2022年9月17日(土)、10月14日(金)、15日(土) 第Ⅴ期：2022年11月11日(金)、12日(土)
調査時間	17:00~22:00
実証調査	17:00 から 1 時間ごとに調査員が各テラス席を周り、利用者の属性を記録。
観測調査	17:00 から 22:00 まで調査員がテラス席を観察し、利用者属性・滞在時間・特徴的な行動等を記録。

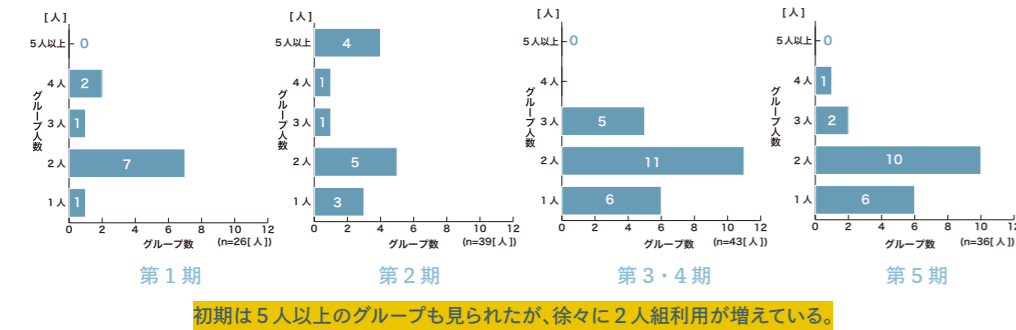
利用者性別



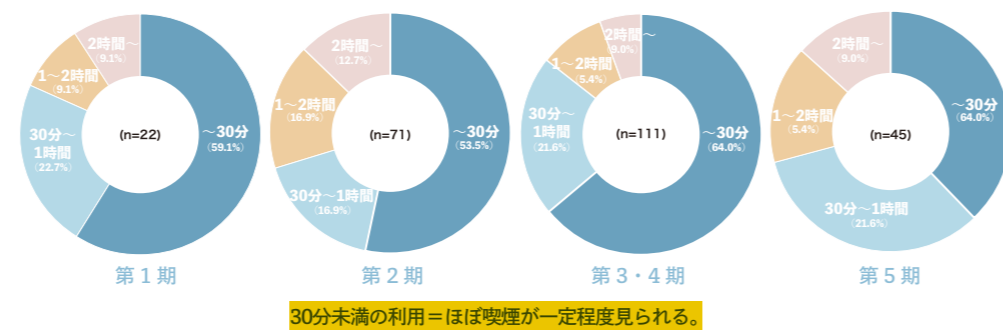
年代別利用者数



グループ人数



テラス席利用者の滞在時間



ご参加店舗の声

「外で飲んでいると**活気がついた**。」「初期の頃はお昼時にテラスを出していたこともあり、天候が良いと**好んでテラス**を利用する方も。犬連れの方も居て、これなら入りやすいと言ってくれた。」
 「犬と一緒に食事ができてよかった。」「**地域に対して広げたい**」「**テラスが好きなお客様**がいる」
 「店先には**にぎわいを創出**できると思う」

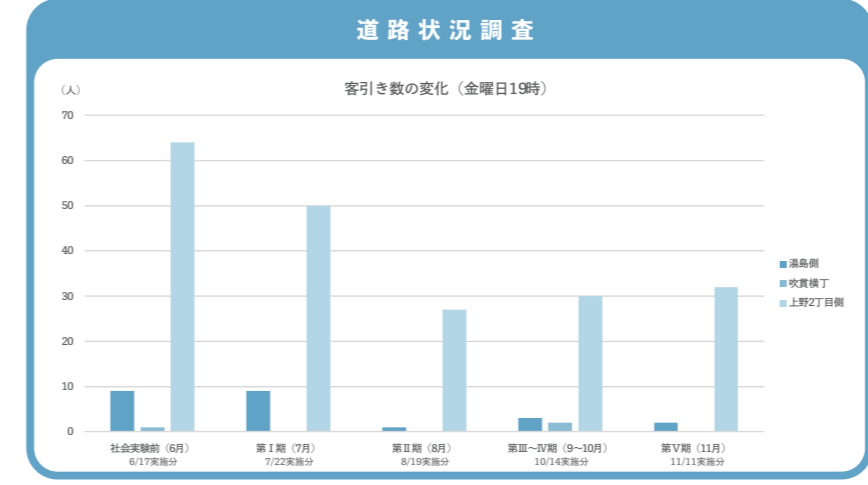
利用者の声

「風通しがよく、注文のシステムもよく機能しており**快適に過ご**せました。」
 「気兼ねなく**会話が楽しめる**。」「**もっと増やしてほしい**。外で飲めるってだけで価値がある。」
 「天気がいい日なら居心地がいい。」「オープンな場所で客席を確保できるのはいい。」
 「**昼間もあると公園**回りの人が座りやすい。」「**街の情報**とか得られるようなものがあると楽しかなと思う。」

治安面（路上環境） | 実験を通じた検証③

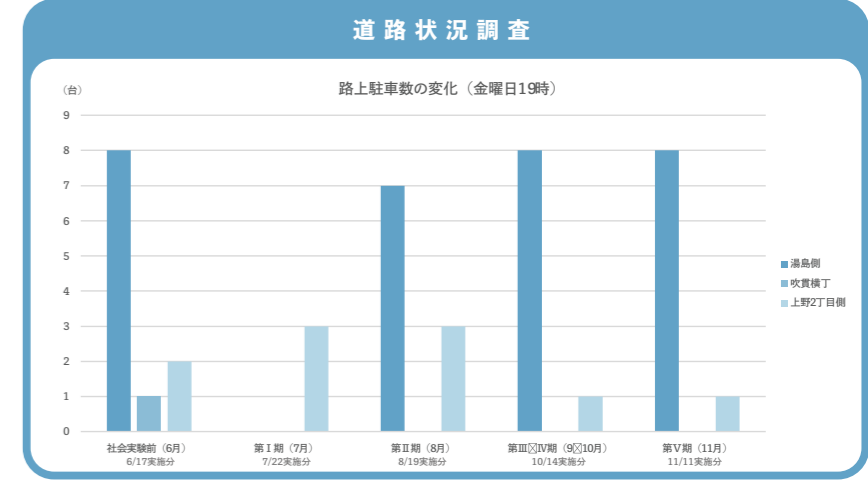
客引き数の変化

→微減の傾向とも読み取れるが、新型コロナウイルス感染症など他の要因による影響が大きく、また長期的課題とも考えられ、**社会実験の効果は判断できない**。



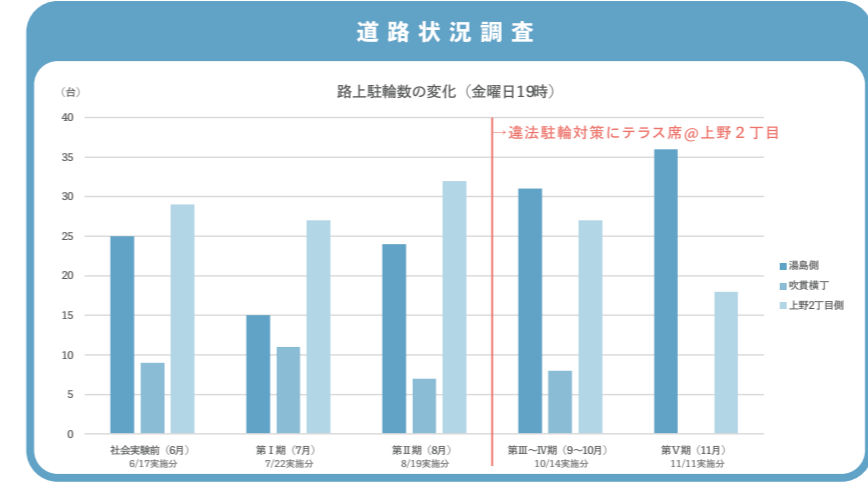
違法駐車数の変化

→社会実験前と同じような水準で推移しており、社会実験による**違法駐車数変化への効果は見られなかった**。



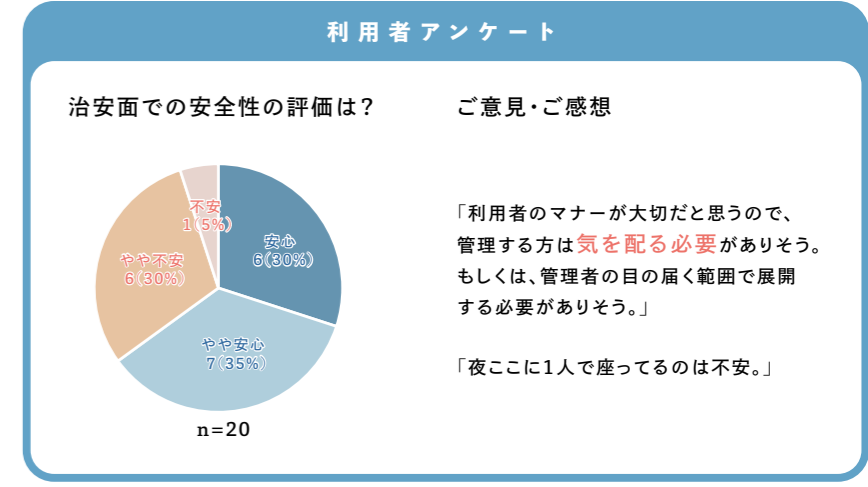
違法駐輪数の変化

→上野2丁目側の違法駐輪スペースにテラス席を置くことで、**当該エリアの違法駐輪数は減少**するが、**他エリアで増加**する傾向が見られる。



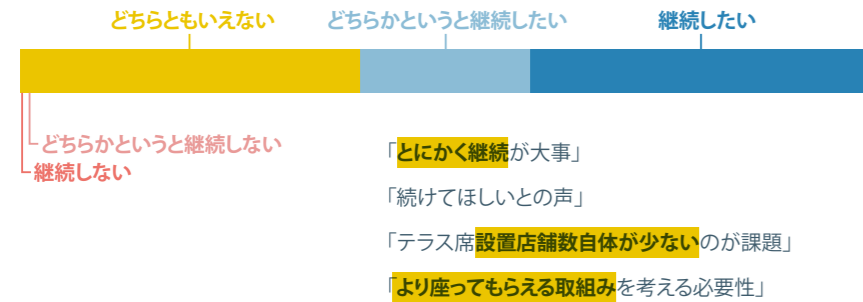
トラブル

→テラス利用者と客引きなどによる**トラブルは見られなかった**。周辺の環境が気になる層も多く、安心感を与える設えとサービスが欠かせない。



継続可能性（参加店舗等の声） | 実験を通じた検証④

✓ 今後の参加意向に関して (参加店舗アンケート)



✓ まちへの影響に対する印象 (参加店舗・上野地域関係者アンケート)



「**安心できるお客様**が増えた。」「**全てが明る**くなりました。」
「**集客はできている**と思う。」
「**客引きも自然と減って**いくのは間違い無いと期待。」
「**風通しがよい**通りというか、全然**雰囲気**が変わった」
「違法駐輪だらけの場所にテラスが置かれたのは**確実に美化**につながる」
「参加店舗が限られている現状だと、**出し過ぎると浮いてしまう**」
「より公式感を出さないと、**誰でも出していい**という**雰囲気**が出始めている」
「**灰皿**が置かれ風紀が乱れるシーンがあり、しっかりコントロールしていく必要性」
「遅い時間に**ガラの悪い酔客**が座ることもあり、逆に**雰囲気**が悪くなることも」
「**吹貫横丁角**のテラス席は、人がいないと逆に**キャッチのたまり場**になりよくない」

運営側に、賑わいづくりよりも地域の安心安全への貢献のための取組みというニュアンスが現状強くある。その点を踏まえた金銭面の負担を設定することが肝要。

店舗前以外のスペースについては、客引きが利用した場合の制御が効かないため、常態的なテラス設置を控える運用を取る。また「公式感」を示す演出の強化が必要。

✓ 金銭面の負担に関して (参加店舗アンケート)



✓ 運営面の負担 (参加店舗アンケート)

「遅い時間にガラの悪い酔っぱらいが座ることもあり、対応に時間がかかった」
「**負担**に対して**利用が少ない**ため、今は**出幅も 1.5m で充分**と考える」
「**町の美化**のために、現状なかなか使われない日でも設置・管理するのは心理面の負担が大きい」
「パイロンや照明を蹴られたりすることが多く、毎度直すのがそれなりの手間」

✓ 継続性を高める占有物件のアイデア (参加店舗・上野地域関係者アンケート)

「寒い季節でも運用するための**暖房器具**」
「以前イベントで**お昼時にテラス**を出していたとき、好んでテラスを利用する方がいたのが印象的。」
「**店舗前以外のスペース**を活かすには**屋台**などの占有物件を考えていく必要がある」
「**照明、植栽、アート、オーニング**などをセットで検討していくことでイメージの向上を図るべき」

夜遅い時間の運用は酔客もあり、手間・リスクも大きい。逆にランチ含めた早い時間の運用を行うことで、新たな客層の獲得や利用イメージの向上を求める声がある。

展開可能性（上野地区関係者の声） | 実験を通じた検証⑤

✓ 2022/8/31 上野まちづくり協議会関係者による社会実験視察+ヒアリング

上野地域関係者の仲町通り社会実験への印象や、期間中の周辺への波及効果を確認し、継続的な道路利活用に向けた今後の改善点を得ることを目的に、上野まちづくり協議会関係者向けに仲町通りの案内ツアーを実施し、ツアー終了後にヒアリング調査を行った。

<参加者> 上野まちづくり協議会関係者：15名 しのばずナイトテラス運営チーム：4名



取り組みそのものについての評価

- **参加条件の仕組み**が本当にいい。**商店会に入らないとテラス席**できないよと。
- **とにかく継続**が大事。
- **オシャレ感覚**を売り込むべき。
- ▲ **利用者に取組の背景**をわかってもらえるようにしたい。

占有箇所について

- **仲町通りの入口あたり**でも実験できれば**印象**が変わる。
- **違法駐輪の場所**にテラスが置かれれば**美化**につながる。
- ▲ **飲食店の前**に出すのが自然。それ以外はなくしたほうが…。

テラス席の作り込みについて

- **白いコーン**自体は**商店会の承認**のもと実施している**証明**になり非常によい。
- **中と外の一体感**があると魅力的。**建物側**との関係性向上が必要。
- ・ **プランター**で占有範囲を囲い、テラス席範囲を明示できるとよい。
- ・ **照明**をより積極的に考えたい。

通りの雰囲気について

- **風通しがよい**通りというか、全然**雰囲気**が変わった印象。
- 「**客引き対策**」の部分では**かなり大きい成果**を挙げているのでは。
- ▲ **物販店**もあるので、**連続性**が出ない。
- ▲ **灰皿**があると風紀が乱れる。しっかりコントロールしていく必要。

占有物件について

- **2m**は**キー**になる出幅。両側**2m**だと連続感も出る。こういう町なんだと育てていくべき。
- **屋台**が出せないか。
- **オーニング**をセットで出し入れできると効果大きい。
- **通りの雰囲気**をよくするためにも、**アート**があると有効では。

利用度合いについて

- ・ **もっとテーブル**が増え客が増え、逆に**呼び込み**がしづらくなるのが理想。
- ・ **利用者の絶対数**が足りない印象。
- ・ **他のイベント**とも連携して実施し、**利用者**の認知向上を。



03 東大×筑波大 合同リサーチ

本社会実験では、東大と筑波大の教員・学生が共同で現地調査や研究会を行い、効果検証を行った。しのばずナイトテラスは現時点で参加店舗が7店舗に留まり、通りの印象を大きく変えるには至っていない。また、客引きが勝手に路上に椅子を持ち出す／喫煙するなど、負の波及効果も散見された。2023年3月の合同研究会では、両大学の学生らがリサーチに基づいて発表を行い、今後の仲町通りテラス席がより適切に利用されるための方法や、参加店舗を更に増やしていくための方法について提言がなされた。

筑波大×東大 合同研究会

本社会実験の効果検証を担当した筑波大チームと東大チームによる合同研究会の様子。
第1回：効果検証の具体的な調査方法に関する議論
第2回：社会実験の調査報告+上野に関する研究発表

第1回 | 2022/6/23 @東京大学本郷キャンパス



第2回 | 2023/3/29 @宮内ビル 4F



第2回の討議内容

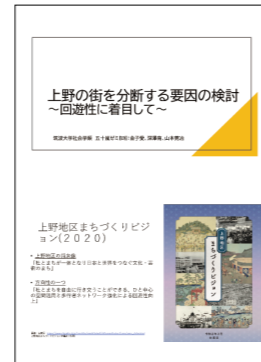
筑波大+東大合同報告会 (2022年3月29日 @宮内ビル 4F)

第1部 18時~18時50分

- 筑波A班 道路活用にに関する台東区・周辺区民意調査(10分)
- 筑波B班 上野の回遊性に関する路上調査結果と提案(15分)
- 東大1班 集積度と利用特性からみた飲食集積地区の変容に関する研究(15分)
(質疑応答)



筑波A班



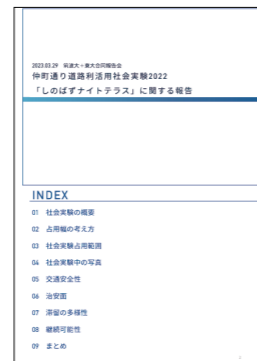
筑波B班



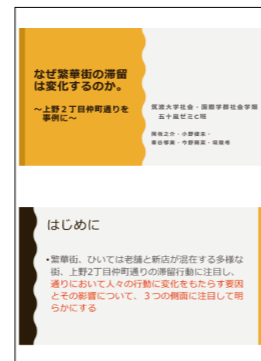
東大1班

第2部 18時50分~19時45分

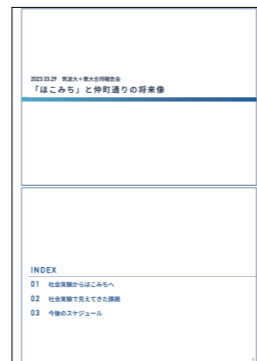
- 東大2班 仲町通り社会実験に関する報告(15分)
- 筑波C班 仲町通りの滞留に影響を与える事象の分析(20分)
- 東大3班 「ほこみち」と仲町通りの将来像(10分)
(質疑応答)



東大2班



筑波C班



東大3班

東大による調査提案 | 仲町通りテラス席の改善提案

認証ラベルの提案

<問題意識>

【仲町通り】

- 「ほこみち」の指定に向けて、**範囲を示す公式の標示**を検討することが必要である。
- 社会実験中から客引きが椅子を持ち出して道路上に置く行為が微増し、**許可範囲とそうでない範囲の明確化**が求められる。

【他エリア】

- コロナ道路占用許可特例を利用したテラス席でも、**正しく手続きした店舗とそうでない店舗が存在し**、コントロールが効かなくなった。(上野6丁目)
- 許可を得ていないテラス席が増加傾向**にあり、問題となっている。(上野4丁目)

<提言>

「誰でもやっていい」という誤った認識が広まることを避けるために、**行政(+警察)による手続・許可を経て実施している旨の強調が必要ではないか。**

導入のイメージとメリット



- 台東区が許可を出している範囲、対象をより**明確かつデザイン性高く**示す。
- コロナ禍を契機とした新しいかたちの道路利活用の初動期において、**正しい手続を経た道路利用を区が応援する仕組み**ができる。
- 台東区がコロナ占用許可特例、ほこみちの検討などを**前向きに進めていることをPR**できる。

舗装と連動した占用幅提案

短期的

シールの貼付やペイントなど**簡易的な方法**による



例1 アート



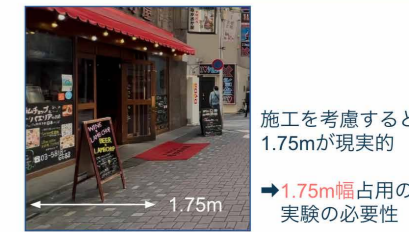
例2 マーカー

長期的

インターロッキングの張り替えなど**大規模な工事**を伴う方法による



大手前通り(姫路)



施工を考慮すると1.75mが現実的
→1.75m幅占用の実験の必要性

実験による効果検証

プチハレ企画の推進提案

イベント



Peace of Beer!

頻度 年に数回程度
集客 大
労力 大

プチハレ



花園日曜日(松山市)

月に1回程度
集客 中
労力 中

日常利用



しのばずナイトテラス

毎日
集客 小
労力 小

ある程度の集客力を持つつつ持続可能な取り組みの必要性

イベント + プチハレ + 日常利用の組み合わせの重要性

路上利活用を支持する人の属性の傾向について、示唆が得られた。

研究①

路上空間のアーバニズムを巡る住民の評価を調べて - 台東区上野地区アメ横・仲町通りを事例に -

筑波大学 社会・国際学群 社会学類 川崎 雄太・河野 隼也

目的

上野の道路利活用は住民のうちどのような層に支持されているのかを明らかにする。

台東区上野地区の二つの道路（アメ横・仲町通り）を対象として、それぞれの道路利活用が地域住民にどう受け止められているのかを明らかにする。

調査概要

インターネット調査のアンケート結果を分析（※委託先：クロス・マーケティング社）

	Q20 アメ横現状評価	Q21 アメ横誘導評価	Q22 仲町通り推進評価	Q23 仲町通り誘導評価	Q24 中央通り計画評価	Q25 中央通り誘導評価	Q26 路上設置物緩和	Q27 全国道路利活用
1 好きだと思う そう思う	14.4	19.9	15.9	15.4	29.7	22.2	11.2	19.2
2 どちらかといえば好きだと思う どちらかといえばそう思う	49.9	54.9	46.7	52.4	55.8	55.8	47.9	57.1
3 どちらかといえば好きじゃないと思う どちらかといえばそう思わない	27.4	16.4	25.4	28.0	12.9	16.4	30.9	21.7
4 好きじゃないと思う そう思わない	14.4	8.8	12.0	9.2	5.2	5.7	10.0	8.0

▲全国及び上野の各通りの現状や取り組みに対する評価アンケート

・有効回答者数：台東区民 299 名、文京・荒川・千代田区民 300 名

・調査期間：2022 年 8 月 2 日～9 日（コロナ禍第 7 波感染高止まり期）

アメ横現状評価（Q20）、仲町推進評価（Q22）、路上設置物緩和評価（Q26）、全国道路利活用評価（Q27）に着目して分析

①-1 | 重回帰分析

変数	標準化係数	t 値	有意水準	B の 95.0% 信頼区間	許容度
性別	0.035	0.913	0.362	-0.037	0.100
年齢	-0.009	-0.025	0.988	-0.081	0.091
Q11 次品店接客	0.063	1.724	0.085	-0.010	0.152
Q12 飲食店接客	-0.036	-0.929	0.348	-0.225	0.079
Q13 飲み会	0.026	0.660	0.510	-0.097	0.195
Q14 コミュニケーション	-0.011	-0.335	0.738	-0.072	0.051
Q15 娯楽施設	0.029	0.844	0.399	-0.072	0.180
Q16 路上利活用	0.124*	3.527	<.001	0.058	0.204
Q17 全国的な道路利活用	0.345**	7.697	<.001	0.286	0.406
Q18 全国的な道路利活用	0.204*	4.250	<.001	0.127	0.345
F (11, 598)					
R ² (調整済み)					28.264**

「コロナ禍での行動」「居住地への愛着」が大きな影響を与えているとの結果
→仲町通りでも同じ結果に

▲アメ横路上評価に大きな影響を与える従属変数を分析

得られた示唆

- 上野の路上利活用を支持するのは、コロナ禍での行動制限意識が低く地元へ愛着を感じている層
- 対して、飲酒の好みや社交性との関連は見られなかった。社交性の高い層も、必ずしも路上をコミュニケーションの場として捉えているわけではないと言える。

①-2 | クラスタ分析

	Cluster #1	#2	#3
アメ横評価	どちらかといえば そう思わない	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない
仲町通り評価	どちらかといえば そう思わない	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない
路上設置物緩和	どちらかといえば そう思わない	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない
全国的な道路利活用	どちらかといえば そう思わない	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない

▲クラスタ分析の結果

得られた示唆

- 道路利活用を好意的に捉えるのは「社交性が高い・飲酒する・大人数で集まる」層
- 全国的な道路利活用は評価するのに、上野の道路利活用は評価しない、という層が見出せた（女性・同居子ども有）
街のイメージを転換し、新たな来街者層として取り込める可能性

「#1 全国・上野の道路利活用を支持しない」
「#2 全国・上野の道路利活用を支持する」
「#3 全国の道路利活用は支持するが上野のものはしない」の 3 類型に分けられた。
→各類型どのような属性が多いのか分析

インタビュー調査から見えた、上野のまちを分断している 3 つの原因。

研究②

上野の街を分断する要因の検討 - 回遊性に注目して -

筑波大学 社会・国際学群社会学類 五十嵐ゼミ 金子 愛・深澤 南・山本 莞治

目的

上野の街の分断に影響を与えている要素を明らかにする。

「杜（動物園・博物館・公園など）とまち（アメ横・飲食店街など）が一体となり日本と世界をつなぐ文化・芸術のまち」という将来像を目指す上野地区において、街の分断に影響を与えている要素を明らかにする。

調査概要

街頭インタビュー調査

	公園口：昼	交差点：昼	公園口：夜	交差点：夜	合計
平日	19 組	20 組	17 組	20 組	76 組
休日	20 組	21 組	11 組	10 組	62 組
合計	39 組	41 組	28 組	30 組	138 組

▲インタビュー調査のサンプル数

・有効回答者数：計 138 組

・調査期間：2022 年 12 月 1 日（平日）、2023 年 1 月 15 日（休日）の昼と夜

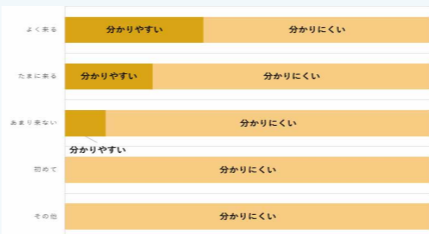
・調査実施場所：上野駅公園口付近、上野駅不忍口中央通り交差点付近

・質問事項：①回答者と上野の関係、②食事を取る場所について、③動線について

仮説 動線の分かりづらさや、駅前・駅ナカの商業施設が歩行者を吸い込んでしまっていることが原因ではないか？

調査結果分析

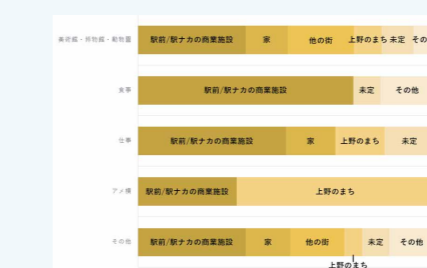
データ例：訪問頻度別・上野の動線をわかりやすいと感じるか



全体でもほとんどの人が動線はわかりにくいと回答しており、その割合は上野に来る頻度が低いほど高い。

動線のわかりにくさが物理的な分断要因としてある。

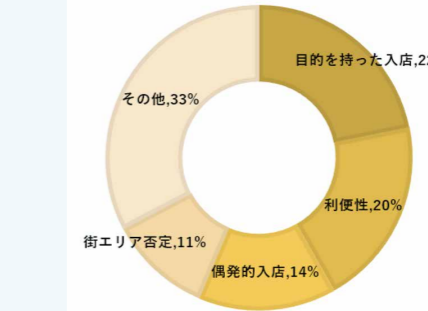
データ例：目的別・食事を取った場所



杜エリアの観光客はアメ横のあるまちエリアでほぼ食事を取らない。

まちエリアに来訪目的が少なく、杜-まち間の客層の差異も大きいとみられる。

データ例：駅前・駅ナカで食事した理由



非計画的な購買を誘発しやすく「偶発的来店」「利便性」が 1/3 以上となった。

駅前・駅ナカの商業施設が多くの人流を吸収する。

考察

駅の動線をわかりやすく改良しても、さらに駅前や駅ナカの施設に顧客が吸収されかねないというジレンマがある。

杜-まちエリア間の視認性の確保が必要

まちエリアに杜エリアの来訪者を惹きつけるような新たな目的地を創出することが必要

良質な滞留促進のためには、客引きや喫煙者とも共存していくことが必要。

研究③ なぜ繁華街の滞留は変化するのか。 - 上野2丁目仲町通りを事例に -

筑波大学 社会・国際学群 社会学類 五十嵐ゼミ 岡 侑之介・小野 健未・車谷 郁実・今野 陽菜・境 駿希

目的 繁華街の滞留行動が変化する要因を明らかにする。

繁華街、ひいては老舗と新店が混在する多様な街・上野2丁目仲町通りの滞留行動に注目し、通りにおいて人々の行動に変化をもたらす要因とその影響について明らかにする。

仮説 以下の三点が滞留行動を左右する要因ではないか？
 (1) 路上におけるキャッチの有無 → この三つの側面について明らかにしていく。
 (2) 喫煙者の有無
 (3) 見る - 見られる関係の影響

研究③-(1) 路上における客引きの有無の検証

背景 客引きの溜まり場と化しているガイトウスタンド

「客引きばかりが目立つ街路空間のイメージの向上」を目指して設置されるも、逆に客引きの溜まり場として利用されてしまっている。



観察調査と考察

- ・客引きには担当するパーソナルスペースがあるようだ
- ・ガイトウスタンドがないエリアでも違う場所にゴミなどを放置する
→ **ガイトウスタンドにあえて放置しているのではなく、パーソナルスペース内に物を置く場所があるから使ってしまう**と考えられる。
- ・立ち止まっている人に客引きが声をかけることは実際少ないが、客引きの近くは居心地が悪いと考えられる

得られた示唆

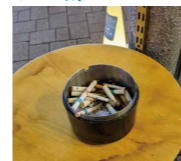
✓ **まずは客引きのパーソナルスペースの外にガイトウスタンドを設置すべき**

→ 認知度が上がったなら客引きの近くにも設置場所を拡大する
(先に立ち飲み客に使ってもらうことで客引きの利用を防ぐ)

研究③-(2) 喫煙状況が滞留人口に与える影響の検証

背景 喫煙場所として利用されるガイトウスタンド・テラス席

- ・飲食店での喫煙は原則禁止
- ・コロナ禍で喫煙室の封鎖が相次ぐ
→ **その分喫煙者に利用されやすい。**



インタビューと考察

- ・テラス席は喫煙者にとって便利だし心地がいい (喫煙者の男性)
- ・仲町の雰囲気だと歩きタバコやポイ捨てもしてしまう (喫煙者の男性)
- ・喫煙席の有無は売りに関係しないが、**テラス席が喫煙者の憩いの場になっていることは確か (店舗関係者)**
- < 先行研究より >
- ・喫煙者の場合、店選びの基準に喫煙の可否は大きく関わる。

得られた示唆

✓ **特定のガイトウスタンドにあえて灰皿を設置し喫煙者を集中させるべき**

→ ポイ捨てと受動喫煙の拡大を防ぎ、無秩序な喫煙・ポイ捨てを誘発する雑然とした通りのイメージからの転換を図る。

路上利用促進の効果を得るには、設置数も利用人数も増やす必要がある。

研究③-(3) 「見る - 見られる関係の影響」の検討

背景1 「見る - 見られる関係」の理論

テラス席利用者は通行人を眺めることを楽しいと感じており、逆に通行人からの視線は恥ずかしいと感じていないことがわかった。「オープンカフェの魅力に関する研究」, 木下真紀子 (2004)
 → **「見る - 見られる関係」が効果的に作用することで、屋外空間の利用率や活気を向上させるのではない。**

背景2 「対人距離」の理論

- ・滞座している人の近くには着座が起きやすい。
- ・対人距離は **0-8m** の頻度が多い。
- ・**周囲に滞座している人がいると滞座は長く続き、新たな着座も起きやすい。**

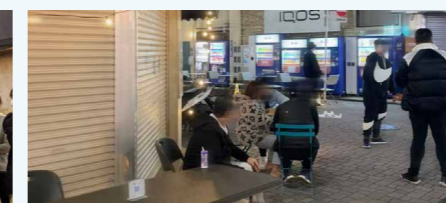
過去の調査と考察

東京大学のテラス席・ガイトウスタンドの利用実態調査

2020年：2日間で177人、20-70代まで幅広い層(女性・子供含む)が使用
 2022年：**3日間で108人(減)**、「**飲食**」よりも「**喫煙**」行動が顕著で**女性や子供は見られなかった。**



▲ 2020年(イベント時)



▲ 2022年

得られた示唆

✓ **「見る - 見られる関係」が十分に成立しなくなったことが利用者の数・属性の減少の原因のとして可能性がある。**

研究③-(4) 仲町通りのガイトウスタンド・テラス席の望ましい設置数と利用人数の検討

吹貫横丁・仲町通りのガイトウスタンド及びテラス席同士の距離を計測し望ましい「対人距離」の理論に当てはめた。



▲ 考察の対象範囲

考察

吹貫横丁



【ガイトウスタンド・テラス席の数】
 0-8mの対人距離を満たしており、**数は足りている。**

【利用者数】一箇所2人とすると、交差点の滞留の難しさを考慮しても、**7箇所14人～11箇所22人**が望ましい。

得られた示唆

✓ **路上利用・滞留を促進するには38人～50人の利用が必要**

仲町通り



【ガイトウスタンド・テラス席の数】
 間隔が8mを超える箇所もあり、**増設が望ましい。**

【利用者数】吹貫横丁と同じ理論だと、**12箇所24人～14箇所28人**が望ましい。

悉皆調査票

仲町通り社会実験 利用実態調査(悉皆調査) 天気: ___ 気温: ___ 担当: ___ 日時: ___月___日(___) 時間: 17・18・19・20・21・22

調査側人数
最低3人(東大生3人+筑波大生3人)

6) シノバズブルワリーひつじあいす

調査方法
17時、18時、19時、20時、21時に、参加店舗全店を回る。

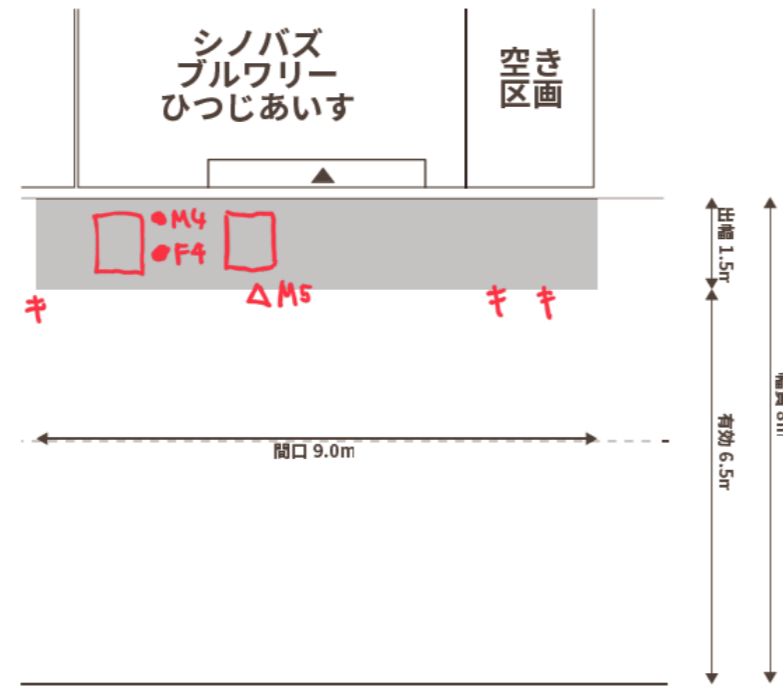
記録する項目
1. テラス席の状態
☆出されているテラス席を描いてください
・汚れている、壊れている などあったら、状態を記入してください。
・テーブル・椅子が大きく移動していた場合
「テーブル・椅子の位置」を記録してください。

2. 利用者属性
M1/F1: 男性 / 女性、12歳以下(子ども)
M2/F2: 男性 / 女性、13-18歳(中高生)
M3/F3: 男性 / 女性、19-30歳(青年層)
M4/F4: 男性 / 女性、31-45歳(子育て世代)
M5/F5: 男性 / 女性、45-65歳(中年層)
M6/F6: 男性 / 女性、65歳以上(高齢者)
Other: 不明

3. 利用者の位置・行動
●: 座っている
△: 立っている
○: グループ
※珍しい行動があった場合、メモを記入してください。

4. 客引きの性別・位置
キ: 客引き
「属性(M: 男性、F: 女性)」「位置」「人数」
※店舗敷地内か路上か、わかるように記録してください。

5. 道路の状態
・ゴミが落ちている、汚れている などあったら、状態を記入してください。



利用実態調査

仲町通り社会実験 利用実態調査(観測調査) 天気: ___ 気温: ___ 担当: ___ 日時: ___月___日(___)

タイムテーブル

テーブルの番号	イスの番号	17:00	15	17:30	45	18:00	15	18:30	45	19:00	15	19:30	45	20:00	15	20:30	45	21:00	15	21:30	45	22:00	
										M4 ● 19:01		---	X 19:30										

記録する項目
1. 利用者属性
M1/F1: 男性 / 女性、12歳以下(子ども)
M2/F2: 男性 / 女性、13-18歳(中高生)
M3/F3: 男性 / 女性、19-30歳(青年層)
M4/F4: 男性 / 女性、31-45歳(子育て世代)
M5/F5: 男性 / 女性、45-65歳(中年層)
M6/F6: 男性 / 女性、65歳以上(高齢者)
Other: 不明

2. 利用者の行動
●: 座っている
△: 立っている
X: その場を離れる
○: グループ

3. 時間
利用開始時間と終了時間
例)
M3
● 18:40 ----- 19:20 X

4. 利用者の移動
・椅子・テーブルの利用者が移動した場合
「どこに移動したか」、「行動」、「移動した時刻」

5. 利用者のアクティビティ
特徴的な行動、気になる行動があった場合、記録してください。
例) 待ち合わせをしている
オーダーするのに困っている

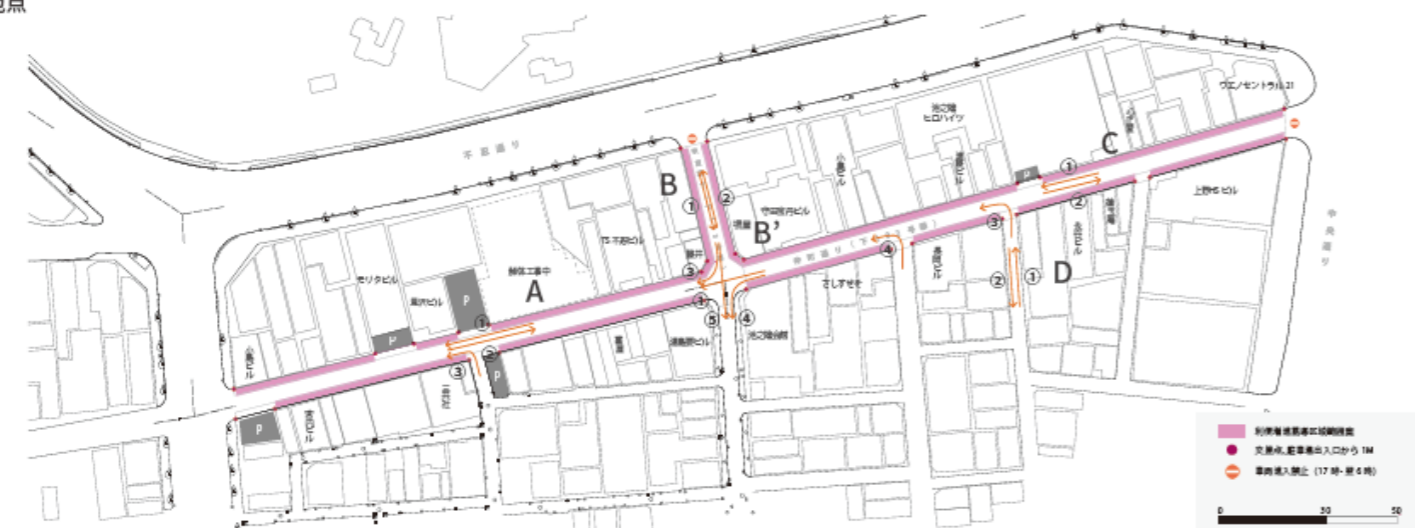
6. 店側のサービス
店員、店舗管理者の「サービス(オーダー・片付け・清掃など)」、「時刻」
※その他できるだけ細かくメモを記入してください。

交通量調査票

仲町通り社会実験 道路状況調査 天気：___ 気温：___ 担当：___ 月___日() . : - . : - .

① 交通量調査

調査地点



歩行者

調査地点	開始時間	終了時間	①	②
A	19:08	19:18	27	14

自転車

調査地点	開始時間	終了時間	①	②
A	19:08	19:18	2	7

自動車

調査地点	開始時間	終了時間	①	③	④	⑤
A	19:08	19:18	0	1		

作業項目

1. 歩行者 (ABCD) 交通量・移動方向の記録 2. 自転車 (ABCD) 交通量・移動方向の記録 3. 自動車 (A'B' CD) 交通量・移動方向・路上駐車台数・位置の記録 各項目 10 分間計測し記入
 ※19 時台の自動車交通量については A 地点、C 地点について 20 時までの計測をお願いします ※19:00-20:00 の自動車交通量に関しては路上駐車に関しても記録をお願いします

道路実態調査票

仲町通り社会実験 道路状況調査 天気：___ 気温：___ 担当：___ 月___日() . : - . : - .

② 道路実態調査



作業項目

1. 路上駐車・駐輪 台数・位置 2. 客引き 人数・位置の記録 3. 路上喫煙 人数・位置 4. 違法設置物 カウント・位置 5. 路上ゴミ カウント・位置・種類
 ※①についてはナンバー・許可証の有無の記録をお願いします (写真記録で問題ありません) ※②③については合法の場所と違法の場所の区別をお願いします

参考資料 参加協力店舗



①梅田食堂



②鉄板焼じゅうじゅう



③きもの池之端藤井



④チョンハクトン



⑤堺屋酒店



⑥シノバズブルワリーひつじあいす



⑦下町バルながおか屋



⑧再来宴

社会実験主体

池之端仲町商店会
上野二丁目仲町通り商店会

社会実験協力

東京大学大学院都市デザイン研究室
筑波大学社会学類 社会調査実習 II (担当: 五十嵐泰正)
株式会社都市計画設計研究所

発行日

2023年3月31日

発行者

東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻 都市デザイン研究室

調査・作成・編集 東京大学大学院 都市デザイン研究室

准教授		中島直人
助教		永野真義
M2		池内亮太・湖東陸・日高凌・劉嘉林・渡邊大祐
M1		阿子嶋翔・伊藤純也・高野楓己・橘俊輔・平野真帆
B4		森田葵
B3		和栗千明姫





ikenohata-nakacho.com



発行日 | 2023年3月31日
発行者 | 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻都市デザイン研究室